

2005年度

ドイツ語学科シラバス

獨協大学

学則別表(2005年度入学者)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	ドイツ語	総合ドイツ語 I	1	3			3			3		
		総合ドイツ語 II	1	3			3			3		
		総合ドイツ語 III	1	3			3			3		
		総合ドイツ語 IV	1	3			3			3		
		基礎ドイツ語 I	1	2			2			2		
		基礎ドイツ語 II	1	2			2			2		
		基礎ドイツ語 III	1	2			2			2		
		基礎ドイツ語 IV	1	2			2			2		
		ドイツ語LL I	1	1			1			1		
		ドイツ語LL II	1	1			1			1		
		ドイツ語圏入門 I	2	2			2			2		
ドイツ語圏入門 II	2	2			2			2				
基礎演習 I	2	2			2			2				
基礎演習 II	2	2			2			2				
科全 学共 通授 目要	英語			10		4 ***	10		4 ***	10		4 ***
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語 V	1	2			2			2		
		総合ドイツ語 VI	1	2			2			2		
		上級ドイツ語(時事)	2		4			4			4	
		上級ドイツ語(会話)	2									
		上級ドイツ語(作文)	2									
		上級ドイツ語特殊演習	2									
		中世ドイツ語 I	2									
		中世ドイツ語 II	2									
		通訳特殊演習 I	2									
		通訳特殊演習 II	2									
		CAI特殊演習	2									
学科専門科目	I言語・文学	ドイツ語学概論 I	2									
		ドイツ語学概論 II	2		4							
		ドイツ文学概論 I	2									
		ドイツ文学概論 II	2									
		ドイツ語学各論 I	2									
		ドイツ語学各論 II	2		8							
		ドイツ文学各論 I	2									
		ドイツ文学各論 II	2									
		ドイツ語学・文学特殊講義	2									
		ドイツ語講読(語学)	2		8			8**			8**	
	ドイツ語講読(文学)	2										
	ドイツ語学・文学特殊講読	2										
	専門演習(言語・文学)	2	4	4*								
	II思想・芸術	ドイツ文化史概論 I	2					2				
		ドイツ文化史概論 II	2					2				
		ドイツの思想 I	2									
		ドイツの思想 II	2									
		ドイツの音楽 I	2									
		ドイツの音楽 II	2									
		ドイツの美術 I	2						8			
ドイツの美術 II		2										
ドイツの演劇 I		2			24				24		24	
ドイツの演劇 II		2										
ドイツ思想・芸術各論 I	2											
ドイツ思想・芸術各論 II	2											
ドイツ思想・芸術特殊講義	2											
ドイツ語講読(思想)	2											
ドイツ語講読(芸術)	2		8**				8			8**		
ドイツ思想・芸術特殊講読	2											
専門演習(思想・芸術)	2					4	4*					

Ⅲ 歴史・ 社会	ドイツ史概論Ⅰ	2					2				
	ドイツ史概論Ⅱ	2					2				
	ドイツの歴史Ⅰ	2									
	ドイツの歴史Ⅱ	2									
	ドイツの社会・事情Ⅰ	2									
	ドイツの社会・事情Ⅱ	2									
	ドイツの地誌・民俗Ⅰ	2									
	ドイツの地誌・民俗Ⅱ	2									
	ドイツの政治・対外関係Ⅰ	2							8		
	ドイツの政治・対外関係Ⅱ	2									
	ドイツの経済Ⅰ	2									
	ドイツの経済Ⅱ	2									
	ドイツの法律Ⅰ	2									
	ドイツの法律Ⅱ	2									
	ドイツ史・社会各論Ⅰ	2									
	ドイツ史・社会各論Ⅱ	2									
	ドイツ史・社会特殊講義	2									
	ドイツ語講読(歴史)	2	8**			8**		8			
	ドイツ語講読(社会)	2									
	ドイツ史・社会特殊講読	2									
専門演習(歴史・社会)	2						4	4*			
総合講座	2										
卒業論文	8										
外国語学部共通科目(別表Ⅰ-5)											
全学 共通 授業 科目 (別表 Ⅳ)	全学 総合 科目 目	カテゴリーⅠ	4			4		4			
		カテゴリーⅡ		8			8		8		
		カテゴリーⅢ		4	4***		4		4		
		カテゴリーⅣ		4			4		4		
		カテゴリーⅤ							4		
外国語科目	英語以外の外国語科目										
	古典語科目										
卒業に必要な単位数合計			52	48	28	56	44	28	56	44	28
			128			128			128		

備考

- (1) 主として履修する1部門より、「専門演習」4単位必修、他に「概論」4単位(Ⅱ類、Ⅲ類では必修)、「各論」8単位、「ドイツ語講読」8単位を選択必修として履修する。各類とも他の部門より「ドイツ語講読」8単位(**印)を選択必修として履修する。主専攻以外の「ドイツ語講読」に換えて「専門演習」(*印)を上限4単位まで履修できる。
 - (2) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
 - (3) ***全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
- 本表は、2005年度入学者から適用する。

学則別表(2003・2004年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語 I a	1	6			6			6			
		ドイツ語 I b	1	6			6			6			
		ドイツ語 II a	1	5			5			5			
		ドイツ語 II b	1	5			5			5			
		ドイツ語圏入門a	2	2			2			2			
		ドイツ語圏入門b	2	2			2			2			
		基礎演習a	2	2			2			2			
		基礎演習b	2	2			2			2			
全学共通授業科目	英語		10		4***	10		4***	10		4***		
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語 III a	1	2			2			2			
		総合ドイツ語 III b	1	2			2			2			
		ドイツ語 III (会話)	2		4			4			4		
		ドイツ語 III (作文)	2										
		上級ドイツ語 (会話)	2										
		上級ドイツ語 (作文)	2										
		上級ドイツ語特殊演習	2										
		中世ドイツ語 I	2										
		中世ドイツ語 II	2										
		通訳特殊演習 I	2										
		通訳特殊演習 II	2										
		CAI特殊演習	2										
		学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論a	2		4						
				ドイツ語学概論b	2								
ドイツ文学概論a	2												
ドイツ文学概論b	2												
ドイツ語学各論a	2												
ドイツ語学各論b	2				8								
ドイツ文学各論a	2												
ドイツ文学各論b	2												
ドイツ語学・文学特殊講義	2												
ドイツ語講読(語学)	2					8			8**			8**	
ドイツ語講読(文学)	2												
ドイツ語学・文学特殊講読	2												
専門演習(言語・文学)a	2			2	2*								
専門演習(言語・文学)b	2			2	2*								
II 思想・芸術	ドイツ文化史概論a			2						2			
	ドイツ文化史概論b		2						2				
	ドイツの思想a		2										
	ドイツの思想b		2										
	ドイツの音楽a		2										
	ドイツの音楽b		2										
	ドイツの美術a		2										
	ドイツの美術b		2										
	ドイツの演劇a		2			24				24		24	
	ドイツの演劇b		2										
	ドイツ思想・芸術各論a		2										
	ドイツ思想・芸術各論b		2										
	ドイツ思想・芸術特殊講義		2										
	ドイツ語講読(思想)		2		8**				8			8**	
	ドイツ語講読(芸術)		2										
ドイツ思想・芸術特殊講読	2												
専門演習(思想・芸術)a	2						2	2*					
専門演習(思想・芸術)b	2						2	2*					
III 歴史・社会	ドイツ史概論a	2											
	ドイツ史概論b	2											
	ドイツの歴史a	2											
	ドイツの歴史b	2											
	ドイツの社会・事情a	2											
	ドイツの社会・事情b	2											
	ドイツの地誌・民俗a	2											
	ドイツの地誌・民俗b	2											
	ドイツの政治・対外関係a	2											
	ドイツの政治・対外関係b	2											
	ドイツの経済a	2											
	ドイツの経済b	2											
	ドイツの法律a	2											
	ドイツの法律b	2											
	ドイツ史・社会各論a	2											
	ドイツ史・社会各論b	2											
	ドイツ史・社会特殊講義	2											
	ドイツ語講読(歴史)	2		8**				8**			8		
	ドイツ語講読(社会)	2											
	ドイツ史・社会特殊講読	2											
専門演習(歴史・社会)a	2							2	2*				
専門演習(歴史・社会)b	2							2	2*				
総合講座	2												
卒業論文	8												
外国語学部共通科目(別表 I-5)													
全学共通科目(別表 I-4)	カテゴリー I			4			4			4			
	カテゴリー II			8			8			8			
	カテゴリー III			4			4			4			
	カテゴリー IV			4	4***		4	4***		4	4***		
	カテゴリー V												
外国語科目	英語以外の外国語科目												
古典語科目													
卒業に必要な単位数合計				52	48	28	56	44	28	56	44	28	
				128			128			128			

備考

- 主として履修する1部門より、「演習」4単位必修、他に「概論」4単位(II類、III類では必修)、「各論」8単位、「講読」8単位を選択必修として履修する。各類とも他の部門より「ドイツ語講読」8単位(**印)を選択必修として履修する。主専攻以外のドイツ語講読に換えて専門演習(+印)を履修できる。
 - 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
 - (3)**全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

学則別表(2001年度・2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語 I	2	12			12			12		
		ドイツ語 II	2	10			10			10		
	第二外国語	英語	2	10			10			10		
	ドイツ語圏入門		4	4			4			4		
	基礎演習		4	4			4			4		
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語Ⅲ	2	4			4			4		
		ドイツ語Ⅲ(会話)	4		4			4			4	
		ドイツ語Ⅲ(作文)	4									
		上級ドイツ語(会話)	4									
		上級ドイツ語(作文)	4									
		上級ドイツ語特殊演習*	2									
		中世ドイツ語	4									
		通訳特殊演習 I*	2									
		通訳特殊演習 II*	2									
		CAI特殊演習*	2									
		学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論	4		4					
ドイツ文学概論	4											
ドイツ語学各論	4				8							
ドイツ文学各論	4											
ドイツ語学・文学特殊講義*	2											
ドイツ語講読(語学) I	4				4			4*			4*	
ドイツ語講読(文学) I	4											4*
ドイツ語講読(語学) II	4				4				4**			4**
ドイツ語講読(文学) II	4											
ドイツ語学・文学特殊講読*	2											
専門演習(言語・文学)	4		4	4**								
II 思想・芸術	ドイツ文化史概論		4				4					
	ドイツの思想		4									
	ドイツの音楽		4			24				8	24	
	ドイツの美術		4									
	ドイツの演劇		4									
	ドイツ思想・芸術各論		4									
	ドイツ思想・芸術特殊講義*		2									
	ドイツ語講読(思想) I		4		4*				4		4*	
	ドイツ語講読(芸術) I		4									4*
	ドイツ語講読(思想) II		4		4**				4			4**
ドイツ語講読(芸術) II	4											
ドイツ思想・芸術特殊講読*	2											
専門演習(思想・芸術)	4						4	4**				
III 歴史・社会	ドイツ史概論		4								4	
	ドイツの歴史		4									
	ドイツの社会・事情		4									
	ドイツの地誌・民俗		4									
	ドイツの政治・対外関係		4									8
	ドイツの経済		4									
	ドイツの法律	4										
	ドイツ史・社会各論	4										
	ドイツ史・社会特殊講義*	2										
	ドイツ語講読(歴史) I	4		4*				4*			4	
ドイツ語講読(社会) I	4											
ドイツ語講読(歴史) II	4		4**				4**			4		
ドイツ語講読(社会) II	4											
ドイツ史・社会特殊講読*	2											
専門演習(歴史・社会)	4											
卒業論文		8								4	4**	
外国語学部共通科目(別表 I - 5)				28			28			28		
卒業に必要な単位数合計				76	32	24	80	28	24	80	28	24
				132			132			132		

備考

- (1) *を付した科目は半期完結とする。
- (2) 各類とも、他の部門より「講読 I」4単位(*印)および「講読 II」4単位(**印)を選択必修として履修する。
ただし、他の部門の「講読 II」に代えて専門演習(**印)を履修できる。
- (3) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
なお、教職課程科目の単位については別に定める。
○本表は、2001年度入学者から適用する。

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の「ドイツ語学科」授業科目、及び「外国語学部共通科目」、2002年度以前入学生用の「ドイツ語学科」授業科目のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

*入学年度により履修開始の表現が異なります。

2003年度以降入学生用目次 : 履修開始 学期

2002年度以前入学生用目次 : 履修開始 学年

*履修不可学科の表記

外：外国語学部 経：経済学部 法：法学部
 英：英語学科 済：経済学科 律：法律学科
 独：ドイツ語学科 営：経営学科 国：国際関係法学科
 仏：フランス語学科
 言：言語文化学科
 言(*1)：言語文化学科、スペイン語履修者
 言(*2)：言語文化学科、中国語履修者
 全：ドイツ語学科以外

①適用年度 (カリキュラム)	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要 【 春学期 】	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法
①適用年度 (カリキュラム)	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要 【 秋学期 】	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法

*上段は、春学期科目です。

- ①②入学年度により科目が異なります。
 ③ 担当教員氏名
 ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
 ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
 ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
 ⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

[注意]

1. 定員

科目の中には定員制のものがあります。

それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

ドイツ語学科授業科目 (2005年度入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員			1	1	全	1
	秋	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員			1	2	全	1
	春	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員			1	1	全	2
	秋	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員			1	2	全	2
	春	ドイツ語LLⅠ	各担当教員			1	1	全	3
	秋	ドイツ語LLⅡ	各担当教員			1	2	全	3
09966	春	ドイツ語圏入門Ⅰ	各担当教員	水3	5-403	2	1	全	6
09967	秋	ドイツ語圏入門Ⅱ	各担当教員	水3	5-403	2	2	全	6

学科専門科目

「Ⅰ 言語・文学」部門

09968	春	ドイツ語学概論Ⅰ	柿沼 義孝	金4	2-401	2	1		20
09969	秋	ドイツ語学概論Ⅱ	柿沼 義孝	金4	2-401	2	2		20
09970	春	ドイツ文学概論Ⅰ	山本 淳	月4	1-301	2	1		21
09971	秋	ドイツ文学概論Ⅱ	山本 淳	月4	1-301	2	2		21

「Ⅱ 思想・芸術」部門

09974	春	ドイツ文化史概論Ⅰ	渡部 重美	木4	2-402	2	1		33
09975	秋	ドイツ文化史概論Ⅱ	渡部 重美	木4	2-402	2	2		33

「Ⅲ 歴史・文化」部門

09976	春	ドイツ史概論Ⅰ	黒田 多美子	火4	1-306	2	1		47
09977	秋	ドイツ史概論Ⅱ	黒田 多美子	火4	1-306	2	2		47

ドイツ語学科授業科目 (2003-2004年度入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
	春	ドイツ語Ⅰa(総合)	各担当教員			1	1	全	1
	秋	ドイツ語Ⅰb(総合)	各担当教員			1	2	全	1
	春	ドイツ語Ⅰa(基礎)	各担当教員			1	1	全	2
	秋	ドイツ語Ⅰb(基礎)	各担当教員			1	2	全	2
	春	ドイツ語Ⅰa(LL)	各担当教員			1	1	全	3
	秋	ドイツ語Ⅰb(LL)	各担当教員			1	2	全	3
	春	ドイツ語Ⅱa(総合)	各担当教員			1	3	全	4
	秋	ドイツ語Ⅱb(総合)	各担当教員			1	4	全	4
	春	ドイツ語Ⅱa(応用)	各担当教員			1	3	全	5
	秋	ドイツ語Ⅱb(応用)	各担当教員			1	4	全	5
00510	春	ドイツ語圏入門a	各担当教員	水3	5-403	2	1	全	6
00511	秋	ドイツ語圏入門b	各担当教員	水3	5-403	2	2	全	6
	春	基礎演習a	各担当教員			2	3	全	7
	秋	基礎演習b	各担当教員			2	4	全	7

学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語Ⅲa	各担当教員			1	5	全	8
	秋	総合ドイツ語Ⅲb	各担当教員			1	6	全	8
10011	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	D. フュルンケース	月1	4-313	2	5		9
10012	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	D. フュルンケース	月1	4-313	2	5		9
10017	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	6-404	2	5		10
10137	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	6-404	2	5		10
10015	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	金4	6-403	2	5		11
10016	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	金4	6-403	2	5		11
10013	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	M. ロエダ	月4	4-310	2	5		12
10014	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	M. ロエダ	月4	4-310	2	5		12
10018	春	ドイツ語Ⅲ(作文)	C. シュパンゲ	木3	1-208	2	5		13
10019	秋	ドイツ語Ⅲ(作文)	C. シュパンゲ	木3	1-208	2	5		13
10021	春	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	3-308	2	5		14
10020	秋	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	3-308	2	5		14
10028	春	上級ドイツ語(会話)	K. O. バイスヴェンガー	水1	3-114	2	5		15
10027	秋	上級ドイツ語(会話)	K. O. バイスヴェンガー	水1	3-114	2	5		15
10026	春	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	火4	6-204	2	5		16
10025	秋	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	火4	6-204	2	5		16
10023	春	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木4	1-204	2	5		17
10024	秋	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木4	1-204	2	5		17
10029	春	上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	月4	3-310	2	5		18
10030	秋	上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	月4	3-310	2	5		18
10031	秋	中世ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	水1	4-311	2	5		19
10032	秋	中世ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	水2	4-311	2	5		19

学科専門科目
「Ⅰ 言語・文学」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
00681	春	ドイツ語学概論a	柿沼 義孝	金4	2-401	2	1		20
06751	秋	ドイツ語学概論b	柿沼 義孝	金4	2-401	2	2		20
06690	春	ドイツ文学概論a	山本 淳	月4	1-301	2	1		21
06691	秋	ドイツ文学概論b	山本 淳	月4	1-301	2	2		21
06604	春	ドイツ語学各論a	諏訪 功	木3	2-301	2	3		22
06605	秋	ドイツ語学各論b	諏訪 功	木3	2-301	2	4		22
08095	春	ドイツ文学各論a	工藤 達也	月1	2-301	2	3		23
08096	秋	ドイツ文学各論b	工藤 達也	月1	2-301	2	4		23
10625	春	ドイツ語学・文学特殊講義	E. モイテン	火4	4-308	2	5		24
10033	春	ドイツ語講読(語学)	A. ヴェルナー	木3	2-201	2	5		25
10034	秋	ドイツ語講読(語学)	A. ヴェルナー	木3	2-201	2	5		25
10037	春	ドイツ語講読(語学)	諏訪 功	水1	1-302	2	5		26
10038	秋	ドイツ語講読(語学)	諏訪 功	水1	1-302	2	5		26
10035	春	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火3	3-202	2	5		27
10036	秋	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火3	3-202	2	5		27
10041	春	ドイツ語講読(文学)	木内 基実	月3	1-202	2	5		28
10042	秋	ドイツ語講読(文学)	木内 基実	月3	1-202	2	5		28
10039	春	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	火4	1-310	2	5		29
10040	秋	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	火4	1-310	2	5		29
10043	春	ドイツ語講読(文学)	洲崎 恵三	火1	6-205	2	5		30
10044	秋	ドイツ語講読(文学)	洲崎 恵三	火1	6-205	2	5		30
10045	春	ドイツ語講読(文学)	山本 淳	木3	1-302	2	5		31
10046	秋	ドイツ語講読(文学)	山本 淳	木3	1-302	2	5		31
10626	春	ドイツ語学・文学特殊講読	E. モイテン	水3	6-309	2	5		32

「Ⅱ 思想・芸術」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
06740	春	ドイツ文化史概論a	渡部 重美	木4	2-402	2	1		33
06741	秋	ドイツ文化史概論b	渡部 重美	木4	2-402	2	2		33
06679	春	ドイツの思想a	船戸 満之	木2	4-401	2	3		34
06643	秋	ドイツの思想b	船戸 満之	木2	4-401	2	4		34
06544	春	ドイツの音楽a	木村 佐千子	月2	3-403	2	3		35
06545	秋	ドイツの音楽b	木村 佐千子	月2	3-403	2	4		35
06709	春	ドイツの美術a	青山 愛香	火4	4-301	2	3		36
06710	秋	ドイツの美術b	青山 愛香	火4	4-301	2	4		36
06579	春	ドイツの演劇a	越部 暹	火3	6-204	2	3		37
06580	秋	ドイツの演劇b	越部 暹	火3	6-204	2	4		37
06626	春	ドイツ思想・芸術各論a	K. O. バイスヴェンガー	火3	1-103	2	3		38
06627	秋	ドイツ思想・芸術各論b	K. O. バイスヴェンガー	火3	1-103	2	4		38
10047	春	ドイツ語講読(思想)	桜井 より子	火3	5-409	2	5		39
10048	秋	ドイツ語講読(思想)	桜井 より子	火3	5-409	2	5		39
10053	春	ドイツ語講読(思想)	下川 浩	金2	2-203	2	5		40
10054	秋	ドイツ語講読(思想)	下川 浩	金2	2-203	2	5		40
10049	春	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	水2	3-205	2	5		41
10050	秋	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	水2	3-205	2	5		41
10051	春	ドイツ語講読(思想)	宮村 重徳	金3	3-207	2	5		42
10052	秋	ドイツ語講読(思想)	宮村 重徳	金3	3-207	2	5		42
10055	春	ドイツ語講読(芸術)	青山 愛香	木3	3-204	2	5		43
10056	秋	ドイツ語講読(芸術)	青山 愛香	木3	3-204	2	5		43

10059	春	ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	木1	3-403	2	5	44
10060	秋	ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	木1	3-403	2	5	44
10057	春	ドイツ語講読(芸術)	辻本 勝好	金3	3-208	2	5	45
10058	秋	ドイツ語講読(芸術)	辻本 勝好	金3	3-208	2	5	45
10062	春	ドイツ語講読(芸術)	前田 智	木1	6-404	2	5	46
10063	秋	ドイツ語講読(芸術)	前田 智	木1	6-404	2	5	46

「Ⅲ歴史・文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
00610	春	ドイツ史概論a	黒田 多美子	火4	1-306	2	1		47
00611	秋	ドイツ史概論b	黒田 多美子	火4	1-306	2	2		47
06676	春	ドイツの歴史a	増谷 英樹	火3	3-203	2	3		48
06677	秋	ドイツの歴史b	増谷 英樹	火3	3-203	2	4		48
06577	春	ドイツの社会・事情a	H. H. ゲートケ	木3	2-208	2	3		49
06578	秋	ドイツの社会・事情b	H. H. ゲートケ	木3	2-208	2	4		49
06522	春	ドイツの地誌・民俗a	大串 紀代子	火3	1-206	2	3		50
06523	秋	ドイツの地誌・民俗b	大串 紀代子	火3	1-206	2	4		50
06528	春	ドイツの政治・対外関係a	古田 善文	火2	1-401	2	3		51
06529	秋	ドイツの政治・対外関係b	古田 善文	火2	1-401	2	4		51
06526	春	ドイツの経済a	大重 光太郎	木2	1-301	2	3		52
06527	秋	ドイツの経済b	大重 光太郎	木2	1-301	2	4		52
09693	春	ドイツの法律a	滝沢 誠	月2	2-208	2	3	法	53
09694	秋	ドイツの法律b	滝沢 誠	月2	2-208	2	4	法	53
10066	春	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火4	1-107	2	5		54
10067	秋	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火4	1-107	2	5		54
10068	春	ドイツ語講読(歴史)	古田 善文	木3	2-210	2	5		55
10069	秋	ドイツ語講読(歴史)	古田 善文	木3	2-210	2	5		55
10064	春	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	3-204	2	5		56
10065	秋	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	3-204	2	5		56
10070	春	ドイツ語講読(社会)	飯沼 隆一	木1	3-305	2	5		57
10071	秋	ドイツ語講読(社会)	飯沼 隆一	木1	3-305	2	5		57
10072	春	ドイツ語講読(社会)	大串 紀代子	木2	2-306	2	5		58
10073	秋	ドイツ語講読(社会)	大串 紀代子	木2	2-306	2	5		58
10074	春	ドイツ語講読(社会)	林部 圭一	火2	3-203	2	5		59
10075	秋	ドイツ語講読(社会)	林部 圭一	火2	3-203	2	5		59
10076	春	ドイツ語講読(社会)	本橋 右京	木1	2-203	2	5		60
10077	秋	ドイツ語講読(社会)	本橋 右京	木1	2-203	2	5		60

ドイツ語学科授業科目 (2002年度以前入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	ドイツ語Ⅰ〔総合〕	各担当教員			2	1	全	1
	通年	ドイツ語Ⅰ〔基礎〕	各担当教員			2	1	全	2
	通年	ドイツ語Ⅰ〔LL〕	各担当教員			2	1	全	3
	通年	ドイツ語Ⅱ〔総合〕	各担当教員			2	2	全	4
	通年	ドイツ語Ⅱ〔応用〕	各担当教員			2	2	全	5
07517	通年	ドイツ語圏入門	各担当教員	水3	5-403	4	1	全	6
	通年	基礎演習	各担当教員			4	2	全	7

学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員			2	3	全	8
00357	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	D. フュルンケース	月1	4-313	4	3		9
00337	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	6-404	4	3		10
06674	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	金4	6-403	4	3		11
00336	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	M. ロエダ	月4	4-310	4	3		12
06601	通年	ドイツ語Ⅲ(作文)	C. シュパング	木3	1-208	4	3		13
00656	通年	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	3-308	4	3		14
06628	通年	上級ドイツ語(会話)	K. O. バイスヴェンガー	水1	3-114	4	3		15
00358	通年	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	火4	6-204	4	3		16
00540	通年	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木4	1-204	4	3		17
06670	通年	上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	月4	3-310	4	3		18
00478	秋	中世ドイツ語	I. アルブレヒト	水1/水2	4-311	4	3		19

学科専門科目

「I 言語・文学」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07520	通年	ドイツ語学概論	柿沼 義孝	金4	2-401	4	1		20
07527	通年	ドイツ文学概論	山本 淳	月4	1-301	4	1		21
07518	通年	ドイツ語学各論	諏訪 功	木3	2-301	4	2		22
00643	通年	ドイツ文学各論	工藤 達也	月1	2-301	4	2		23
10625	春	ドイツ語学・文学特殊講義	E. モイテン	火4	4-308	2	3		24
00338	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	A. ヴェルナー	木3	2-201	4	3		25
06603	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	諏訪 功	水1	1-302	4	3		26
06620	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	永岡 敦	火3	3-202	4	3		27
07627	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	木内 基実	月3	1-202	4	3		28
00644	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	酒井 府	火4	1-310	4	3		29
07629	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	洲崎 恵三	火1	6-205	4	3		30
07622	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	山本 淳	木3	1-302	4	3		31
07628	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	A. ヴェルナー	木3	2-201	4	3		25
07621	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	諏訪 功	水1	1-302	4	3		26
07637	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	永岡 敦	火3	3-202	4	3		27
06589	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	木内 基実	月3	1-202	4	3		28
07623	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	酒井 府	火4	1-310	4	3		29

06602	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	洲崎 恵三	火1	6-205	4	3	30
06606	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	山本 淳	木3	1-302	4	3	31
10626	春	ドイツ語学・文学特殊講読	E. モイテン	水3	6-309	2	3	32

「Ⅱ 思想・芸術」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07525	通年	ドイツ文化史概論	渡部 重美	木4	2-402	4	1		33
07519	通年	ドイツの思想	船戸 満之	木2	4-401	4	2		34
07516	通年	ドイツの音楽	木村 佐千子	月2	3-403	4	2		35
00359	通年	ドイツの美術	青山 愛香	火4	4-301	4	2		36
07522	通年	ドイツの演劇	越部 暹	火3	6-204	4	2		37
07526	通年	ドイツ思想・芸術各論	K. O. バイスヴェンガー	火3	1-103	4	2		38
06553	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	桜井 より子	火3	5-409	4	3		39
06752	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	下川 浩	金2	2-203	4	3		40
06645	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	船戸 満之	水2	3-205	4	3		41
06756	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	宮村 重徳	金3	3-207	4	3		42
07639	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	青山 愛香	木3	3-204	4	3		43
07620	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	木村 佐千子	木1	3-403	4	3		44
07638	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	辻本 勝好	金3	3-208	4	3		45
07634	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	前田 智	木1	6-404	4	3		46
07636	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	桜井 より子	火3	5-409	4	3		39
07640	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	下川 浩	金2	2-203	4	3		40
07625	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	船戸 満之	水2	3-205	4	3		41
07635	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	宮村 重徳	金3	3-207	4	3		42
06717	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	青山 愛香	木3	3-204	4	3		43
06552	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	木村 佐千子	木1	3-403	4	3		44
06608	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	辻本 勝好	金3	3-208	4	3		45
06675	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	前田 智	木1	6-404	4	3		46

「Ⅲ 歴史・文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07524	通年	ドイツ史概論	黒田 多美子	火4	1-306	4	1		47
07529	通年	ドイツの歴史	増谷 英樹	火3	3-203	4	2		48
07521	通年	ドイツの社会・事情	H. H. ゲートケ	木3	2-208	4	2		49
07523	通年	ドイツの地誌・民俗	大串 紀代子	火3	1-206	4	2		50
07515	通年	ドイツの政治・対外関係	古田 善文	火2	1-401	4	2		51
07514	通年	ドイツの経済	大重 光太郎	木2	1-301	4	2		52
00422	通年	ドイツの法律	滝沢 誠	月2	2-208	4	2	法	53
00429	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	井村 行子	火4	1-107	4	3		54
06638	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	古田 善文	木3	2-210	4	3		55
06678	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	増谷 英樹	水2	3-204	4	3		56
07631	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	飯沼 隆一	木1	3-305	4	3		57
06607	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	大串 紀代子	木2	2-306	4	3		58
07624	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	林部 圭一	火2	3-203	4	3		59
07630	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	本橋 右京	木1	2-203	4	3		60
07633	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	井村 行子	火4	1-107	4	3		54
07626	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	古田 善文	木3	2-210	4	3		55
07641	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	増谷 英樹	水2	3-204	4	3		56
06521	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	飯沼 隆一	木1	3-305	4	3		57
07632	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	大串 紀代子	木2	2-306	4	3		58
06633	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	林部 圭一	火2	3-203	4	3		59
06687	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	本橋 右京	木1	2-203	4	3		60

「選択」

08466	通年	卒業論文	金井 満	水3	6-404	8	4	全	61
-------	----	------	------	----	-------	---	---	---	----

ドイツ語学科英語科目 ＜4年生用＞

目次

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
10119	通年	英語(基礎会話Ⅲ)	J. スティベンソン	月1	6-206	2	1	全	62
08112	通年	英語(基礎作文Ⅲ)	飯島 優雅	月1	6-308	2	1	全	63
10118	通年	英語(基礎読解Ⅲ)	岡田 圭子	月1	3-116	2	1	全	64
10124	通年	英語(上級会話Ⅲ)	C. カーペンター	水3	6-307	2	1	全	65
10122	通年	英語(上級読解Ⅲ)	佐藤 保	水3	1-308	2	1	全	66
08122	通年	英語(上級作文Ⅲ)	保坂 華子	水3	5-409	2	1	全	67
10123	通年	英語(上級読解Ⅲ)	C. カーペンター	水4	6-305	2	1	全	68
10125	通年	英語(上級会話Ⅲ)	G. G. コッホ	水4	6-404	2	1	全	69
00632	通年	英語(基礎会話Ⅲ)	R. M. ペイン	金1	1-111	2	1	全	70
00521	通年	英語(基礎読解Ⅲ)	赤嶺 玲子	金1	4-308	2	1	全	71
08114	通年	英語(基礎作文Ⅲ)	柚木 一彦	金1	3-209	2	1	全	72
08126	春	英語(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	1	全	73
08127	秋	英語(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	1	全	73

05年度(春)	総合ドイツ語 I	担当者	各担当教員
03年度以降(春)	ドイツ語 I a (総合)		
02年度以前(春)	ドイツ語 I (総合)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band I der Stufen International</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Band I: Lektion 1 2. Band I: Lektion 1 3. Band I: Lektion 1 4. Band I: Lektion 2 5. Band I: Lektion 2 6. Band I: Lektion 2 7. Band I: Lektion 3 8. Band I: Lektion 3 9. Band I: Lektion 3 10. Band I: Lektion 4 11. Band I: Lektion 4 12. Band I: Lektion 4 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stufen International Band I (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

05年度(秋)	総合ドイツ語 II	担当者	各担当教員
03年度以降(秋)	ドイツ語 I b (総合)		
02年度以前(秋)	ドイツ語 I (総合)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band I der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Band I: Lektion 5 2. Band I: Lektion 5 3. Band I: Lektion 5 4. Band I: Lektion 5 5. Band I: Lektion 6 6. Band I: Lektion 6 7. Band I: Lektion 6 8. Band I: Lektion 6 9. Band I: Lektion 7 10. Band I: Lektion 7 11. Band I: Lektion 7 12. Band I: Lektion 7 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stufen International Band I (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

05年度(春) 03年度以降(春) 02年度以前(春)	基礎ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰa(基礎) ドイツ語Ⅰ(基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の4つの能力の土台作りを目指します。</p> <p>初めて学習する言語ですので、発音から始めて2学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。<u>各学期7回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。</u></p> <p>辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員により別メニューの授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>1 発音</p> <p>2 発音</p> <p>3 春学期 Lektion1～Lektion8 2課終了ごとに小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度(秋) 03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	基礎ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅰb(基礎) ドイツ語Ⅰ(基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の4つの能力の土台作りを目指します。</p> <p>初めて学習する言語ですので、発音から始めて2学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。<u>各学期7回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。</u></p> <p>辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員により別メニューの授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>1 秋学期 Lektion9～Lektion16 2課終了ごとに小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度(春)	ドイツ語 I L L	担当者	各担当教員
03年度以降(春)	ドイツ語 I a (L L)		
02年度以前(春)	ドイツ語 I (L L)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。</p> <p>ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。</p> <p>練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。</p> <p>また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。</p> <p>練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。</p>		1. 春学期 Lektion1～Lektion5	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		期末統一試験と出席、平常点。	

05年度(秋)	ドイツ語 II L L	担当者	各担当教員
03年度以降(秋)	ドイツ語 I b (L L)		
02年度以前(秋)	ドイツ語 I (L L)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。</p> <p>ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。</p> <p>練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。</p> <p>また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。</p> <p>練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。</p>		1 秋学期 Lektion6～Lektion10	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布。今学期は Deutsche Phonetik für japanische Studenten という教材を用います。授業中に教材購入の指示をします。</p>		期末統一試験と出席、平常点。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語Ⅱa(総合) ドイツ語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Band I: Lektion 8 2. Band I: Lektion 8 3. Band I: Lektion 8 4. Band I: Lektion 9 5. Band I: Lektion 9 6. Band I: Lektion 9 7. Band I: Lektion 10 8. Band I: Lektion 10 9. Band I: Lektion 10 10. Band II: Lektion 11 11. Band II: Lektion 11 12. Band II: Lektion 11 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stufen International Band I und II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語Ⅱb(総合) ドイツ語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Band II: Lektion 12 2. Band II: Lektion 12 3. Band II: Lektion 12 4. Band II: Lektion 12 5. Band II: Lektion 13 6. Band II: Lektion 13 7. Band II: Lektion 13 8. Band II: Lektion 13 9. Band II: Lektion 14 10. Band II: Lektion 14 11. Band II: Lektion 14 12. Band II: Lektion 14 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stufen International Band I und II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語Ⅱa(応用) ドイツ語Ⅱ(応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>4月 第1週: 統一復習テスト Übung macht den Meister の17・18課</p> <p>5月ー 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 1~Lektion 6</p> <p>2課ごとに小テスト</p> <p>春学期学年末 統一試験</p> <p>夏休み 宿題!</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷弘道, ヴルメラ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社。 1年次の文法教科書		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語Ⅱb(応用) ドイツ語Ⅱ(応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>秋学期 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 7~Lektion 12</p> <p>教科書終了後に各クラスごとに練習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷弘道, ヴルメラ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社。 1年次の文法教科書		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度(春) 03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語圏入門 I ドイツ語圏入門 a ドイツ語圏入門	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標 ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像(いわば見取り図)を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) レポートの書き方: 参考文献と自分の意見の区別のしかた、参考文献の挙げかたや引用方法を学ぶ。</p> <p>講義概要 各担当者が、地理、言語、食文化、歴史、環境問題、音楽 etc. といったテーマで基本的な講義をします。その他、ドイツ語を使った将来について、先輩の体験談をきく回などももうけます。 なお、第1回の授業で、授業内容・担当者の紹介を行い、出席・課題図書・レポートの書き方、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。 *ドイツ語圏入門 a,b の単位を取得することが、2年次の基礎演習の履修条件です。</p>		<p>第1回の授業時に、本年度の講義計画表を配布します。</p> <p>5月初旬△切のレポートを課します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。また、第1回のガイダンス時に基本図書および課題図書文献目録を配布します。</p>		<p>出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。詳細は第1回の授業(ガイダンス)の際に説明します。</p>	

05年度(秋) 03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語圏入門 II ドイツ語圏入門 b ドイツ語圏入門	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標 ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像(いわば見取り図)を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) レポートの書き方: 参考文献と自分の意見の区別のしかた、参考文献の挙げかたや引用方法を学ぶ。</p> <p>講義概要 各担当者が、政治、経済、文学、思想、美術、外国人問題 etc. といったテーマで、基本的な講義を行います。 なお、秋学期のみ受講する学生には、第1回の授業で履修上の注意事項等を記したプリントを配布しますので、必ず出席してください。 *ドイツ語圏入門 a,b の単位を取得することが、2年次の基礎演習の履修条件です。</p>		<p>第1回の授業時に、本年度の講義計画表を配布します。</p> <p>10月上旬△切のレポートを課します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。また、秋学期のみ履修する学生には、第1回の授業時に基本図書および課題図書文献目録を配布します。</p>		<p>出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	基礎演習 a 基礎演習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の修得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしていました。2年次の「基礎演習」では、自ら情報を収集し、それを口頭で発表したり文書(レポート)としてまとめるプレゼンテーションの技術を高めることを目的にしています。</p> <p>春学期では、おもにグループでの共同研究や全体やグループでの討論、ディベートなどを通して、情報検索、口頭発表の作法、討議のしかたなどの基礎を身につけます。</p> <p>3回のグループ研究では「ドイツの都市研究」は必修共通テーマで、残りの2回は「環境問題」、「大学をめぐる」、「グリム童話」、「第2次世界大戦」などから、教員と学生の相談のうえでテーマを決定します。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 自己紹介(プレゼンテーションの第1歩) ドイツの都市研究の準備</p> <p>3. グループ研究① ドイツの都市研究1</p> <p>4. グループ研究① ドイツの都市研究2</p> <p>5. グループ研究① ドイツの都市研究3</p> <p>6. グループ研究② テーマ1</p> <p>7. グループ研究②</p> <p>8. グループ研究②</p> <p>9. グループ研究③ テーマ2</p> <p>10. グループ研究③</p> <p>11. グループ研究③</p> <p>12. まとめ 秋学期個人自由研究分担最終決定</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示します。		出席(出欠・遅刻)、授業参加(討論などへの参加)、口頭発表、レポートから総合的に判断します。詳しくは第1回授業時に。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	基礎演習 b 基礎演習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期のうちに決定していた分担にもとづいて、秋学期は個人による自由研究発表を行います。</p> <p>発表はおおよそ20分、質疑応答に10分を予定しています。発表者は、発表の遅くとも2週間前までに担当教員と相談しながら、発表内容を絞り込み、自分なりの問題提起→それに対する解答となるように発表をまとめ、ハンドアウトを作成してください。</p> <p>聞き手も漫然と聞くのではなく、発表者の問題意識を共有しつつ、積極的に質疑応答に参加してください。</p>		<p>1. 前期レポート返却、講評、後期分担の再確認</p> <p>2. 以下、個人自由研究発表、質疑</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示します。		出席(出欠・遅刻)、授業参加(討論などへの参加)、口頭発表、レポートから総合的に判断します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	総合ドイツ語Ⅲ a 総合ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Band II: Lektion 15 2. Band II: Lektion 15 3. Band II: Lektion 15 4. Band II: Lektion 15 5. Band II: Lektion 16 6. Band II: Lektion 16 7. Band II: Lektion 16 8. Band II: Lektion 16 9. Band II: Lektion 17 10. Band II: Lektion 17 11. Band II: Lektion 17 12. Band II: Lektion 17 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stufen International Band II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	総合ドイツ語Ⅲ b 総合ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Band II: Lektion 18 2. Band II: Lektion 18 3. Band II: Lektion 18 4. Band II: Lektion 18 5. Band II: Lektion 19 6. Band II: Lektion 19 7. Band II: Lektion 19 8. Band II: Lektion 19 9. Band II: Lektion 20 10. Band II: Lektion 20 11. Band II: Lektion 20 12. Band II: Lektion 20 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stufen International Band II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	ドイツ語 III (会話)	担当者	D. フュルンケース
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Konversation</p> <p>Ziel der Übung ist, sich auf Deutsch über aktuelle Aspekte von Gesellschaft, Ökologie, Ökonomie, Politik und Kultur in Deutschland, in Österreich und in der Schweiz zu unterhalten. Die Themen werden im Laufe der Semesterwochen von den Teilnehmern ausgewählt und dann gemeinsam besprochen.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Fotokopien werden verteilt.		Mündliche Prüfungen	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	ドイツ語 III (会話)	担当者	D. フュルンケース
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	ドイツ語 III (会話)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Nach anfänglicher Wiederholung und fundamentalen Sprechübungen wollen wir verschiedene aktuelle Themen besprechen, in nicht zu schwierigem Deutsch.</p> <p>Die Themenauswahl richtet sich nach dem Niveau und Interesse der Teilnehmer, ein Lehrbuch werden wir aber dennoch benutzen.</p> <p>Wir beginnen einfach... Regelmäßige Teilnahme ist aber nötig.</p> <p>現代的なテーマをドイツ語で学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Wiederhlg. verschiedener Art 3. Tagesablauf, Termine 4. Familie 5. Einladung 6. Freundschaft/Geschenke 7. Wohnung 8. Wegbeschreibung 9. Studium 10. Berufsausbildung 11. Schulsystem 12. Sommertest 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag		Mitarbeit, Test	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	ドイツ語 III (会話)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fortsetzung des ersten Semesters in gleicher Form im Herbstsemester...</p> <p>Hörübungen vermehrt Hören und Sprechen freie Referate</p>		<p>Das zweite Semester orientiert sich mehr nach dem Buch. Dazu kommt mehr Video-Arbeit.</p> <p>Zusätzliches Material in Form von Kopien.</p> <p>Referate, freie Gespräche</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag		Mitarbeit, Test	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Gesprächssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel eingeübt werden. Dabei sind Themenvorschläge von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ausserdem sind Übungen vorgesehen, die den mündlichen Aufgaben der ZD-Prüfung entsprechen und somit der Vorbereitung dieser Prüfung dienen können.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt		Die Notengebung wird von der Grösse des Kurses abhängen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Gesprächssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel eingeübt werden. Dabei sind Themenvorschläge von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ausserdem sind Übungen vorgesehen, die den mündlichen Aufgaben der ZD-Prüfung entsprechen und somit der Vorbereitung dieser Prüfung dienen können.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt		Die Notengebung wird von der Grösse des Kurses abhängen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	ドイツ語 III (会話)	担当者	Maike Roeder
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres, die ihre kommunikativen Fähigkeiten verbessern, ihren Wortschatz erweitern und ihr Hörverständnis schulen wollen.</p> <p>Am wichtigsten ist jedoch, die Angst vor dem Sprechen zu verlieren! Damit das leichter fällt, wollen wir Interviews und Rollenspiele machen, Diskussionen führen oder kurze Präsentationen zu selbst gewählten Themen vorstellen.</p> <p>Als Sprechansätze dienen aktuelle Nachrichten, Hörtexte, kurze Lesetexte, Videos, Filme, Bilder, Diagramme und vieles mehr.</p> <p>Die Themenwahl richtet sich nach den Interessen der Teilnehmer und wird in der ersten Stunde festgelegt.</p> <p>Am Semesterende hält jeder Teilnehmer ein Kurzreferat über ein selbst gewähltes Thema mit anschließender Diskussion in der Gruppe.</p> <p>Nur Mut!</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Kennenlernen. Festlegung der Themen 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. Kurzreferate zu selbst gewählten Themen 12. Kurzreferate zu selbst gewählten Themen 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme und (aktive!) mündliche Mitarbeit; 1 Kurzreferat	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	ドイツ語 III (会話)	担当者	Maike Roeder
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres, die ihre kommunikativen Fähigkeiten verbessern, ihren Wortschatz erweitern und ihr Hörverständnis schulen wollen.</p> <p>Am wichtigsten ist jedoch, die Angst vor dem Sprechen zu verlieren! Damit das leichter fällt, wollen wir Interviews und Rollenspiele machen, Diskussionen führen oder kurze Präsentationen zu selbst gewählten Themen vorstellen.</p> <p>Als Sprechansätze dienen aktuelle Nachrichten, Hörtexte, kurze Lesetexte, Videos, Filme, Bilder, Diagramme und vieles mehr.</p> <p>Die Themenwahl richtet sich nach den Interessen der Teilnehmer und wird in der ersten Stunde festgelegt.</p> <p>Am Semesterende hält jeder Teilnehmer ein Kurzreferat über ein selbst gewähltes Thema mit anschließender Diskussion in der Gruppe.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Festlegung der Themen 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. Kurzreferate zu selbst gewählten Themen 12. Kurzreferate zu selbst gewählten Themen 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme und aktive (!) mündliche Mitarbeit; Kurzreferat;	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	ドイツ語 III (作文)	担当者	C. W. シュパン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Zuge des „Deutschland in Japan“ Jahres gibt es einen Schreibwettbewerb (ドイツ語作文コンクール).</p> <p>In der Beschreibung des Projektes heißt es:</p> <p>「ドイツ語の初心者でもどんどん応募して、ステキな賞品 (ドイツでの語学コースなどをゲットしよう! ドイツ語習得能力に応じて3つのレベルに分けて実施)」</p> <p>Der Einsendeschluß für die Aufsätze ist der 31.8.2005, d.h. wir werden uns – das Interesse der Teilnehmer vorausgesetzt – im ersten Semester mit der Bearbeitung der entsprechenden Aufsätze beschäftigen. Zwei Themen stehen zur Auswahl (obwohl wir eigentlich das zweite Thema behandeln müssten): Mein Traum von Deutschland Was ich Deutschland sagen möchte</p> <p>Die Informationen zu dem Wettbewerb sollten die Teilnehmer <i>vor dem ersten Unterricht</i> im Internet unter www.deutsch-in-japan.de/schreibwettbewerb ansehen!!!</p>		<p>Die erste Stunde dient dem gegenseitigen kennenlernen.</p> <p>In der zweiten Stunde werden wir uns mit dem Konzept des Schreibwettbewerbs beschäftigen.</p> <p>Ab der dritten Stunde beginnt die konkrete Vorbereitung für die Abfassung der Aufsätze für den Schreibwettbewerb.</p> <p>Dabei werden wir uns mit Wortschatzfragen ebenso beschäftigen (müssen) wie mit Fragen des Text-Aufbaus, der Darstellungsform (Bericht, Nachricht, Kommentar, Kurzgeschichte etc.) usw.</p> <p>Freude und Interesse an dem Projekt sollten die Teilnehmer des Kurse von sich aus mit- und einbringen.</p> <p>Regelmäßige Teilnahme am Unterricht ist selbstverständlich Voraussetzung dafür, daß bis zum Ende des ersten Semesters gute Beiträge entstehen können.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Zum Teil werden wir Materialien verwenden, die auf der oben angegebenen Homepage zu finden sind. Weitere Unterlagen werden vom Dozenten verteilt.		<p>1.) Individuelle Hausaufgaben, die am Anfang jeder Stunde von einem Teilnehmer vorgestellt werden.</p> <p>2.) Der fertige Aufsatz (als Semesterabschlußarbeit).</p>	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	ドイツ語 III (作文)	担当者	C. W. シュパン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im zweiten Semester werden wir uns mit verschiedenen Themen beschäftigen, die wir in der ersten Stunde nach der Sommerpause gemeinsam erarbeiten.</p> <p>Mögliche Vorschläge wären z.B.</p> <p>Deutsche Geschichte des 20. Jahrhundert Fußball (Bundesliga, J-League, WM 2002/2006 etc.) Reisen (Städte, Deutschland, Österreich etc.) Familie (Eltern, Geschwister, Großeltern etc.) Autos (Länder, Marken, Modelle, Vergleiche etc.) Schule, Universität, Berufswahl etc.</p> <p>Gut wäre es, wenn wir uns auf ein Oberthema oder zwei, drei Oberthemen einigen könnten. Jeder Teilnehmer sucht sich dann sein individuelles Thema aus, das er oder sie dann während des Semesters kontinuierlich bearbeitet und zu einem Text ausbaut. So sollte im Laufe der Zeit ein relativ umfangreicher Aufsatz entstehen, der dann zum Schluß die Basis der Semesternote darstellen wird.</p>		<p>In diesem Kurs steht die Praxis des Schreibens im Vordergrund.</p> <p>Es ist Aufgabe der Studenten jede Woche an ihrem Aufsatz ein Stück weiterzuschreiben. Diejenigen, die gut schreiben können, werden schneller vorankommen und längere Texte schreiben können als die schwächeren Teilnehmer. Daß allerdings ist kein Problem: Jeder soll hier nach seinen Möglichkeiten einen eigenen Aufsatz erstellen.</p> <p>Auch in diesem Semester werden wir uns mit Wortschatzproblemen ebenso beschäftigen wie mit Fragen des Text-Aufbaus etc.</p> <p>Freude und Interesse am selbstgewählten Thema, sind ebenso wie die regelmäßige Teilnahme am Unterricht wichtige Voraussetzungen dafür, daß am Ende gute Texte entstehen können.</p> <p>Wenn alle mitarbeiten steht uns ein interessantes Jahr bevor. Viel Spaß!</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Soweit nötig werden Texte vom Dozenten verteilt. Für die Wortschatzarbeit empfehle ich: Paul Stocker, Wort für Wort, London, 2000 (3. Auflage).		<p>1.) Eventuell Unterrichts-Protokolle.</p> <p>2.) Der während des Semesters erarbeitete Aufsatz als Semesterabschlußarbeit.</p>	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	ドイツ語 III (作文)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir werden uns verschiedenen Arten von Schreibübungen widmen, von einfachen persönlichen Mitteilung bis hin zu offiziellen Briefen, vor allem aber werden wir dabei auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen.</p> <p>Regelmäßige Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern.</p> <p>Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch auf Wünsche und Fragen der Studenten kann ich eingehen.</p> <p>Schreiben soll Spaß machen...</p>		<p>Der Ablauf des Jahresplanes wird zu Semesterbeginn besprochen, dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer.</p> <p>Freude und Interesse am Schreiben müssen die Teilnehmer mitbringen, regelmäßige Teilnahme ist erforderlich.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社)		Hausaufgaben und End-Semestertests	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	ドイツ語 III (作文)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung des Sommersemesters ab September (Herbstsemester)		Fortsetzungen aus dem ersten Semester	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社)		Hausaufgaben und End-Semestertests	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	上級ドイツ語(会話)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Erlern man eine Fremdsprache, so hat man den Wunsch, sein Wissen über ein Thema oder seine Meinung darüber verbal zum Ausdruck zu bringen. Es ist aber auf Dauer unbefriedigend, wenn man nur einzelne Sätze von sich geben kann. Im Kurs soll deshalb geschult werden, sich in zusammenhängender Form ausdrücken zu können. Dafür stehen gesellschaftlich relevante Themen zur Wahl, die in Absprache mit den Studenten gewählt werden (Beispiele siehe 授業計画).</p> <p>Sprechansätze bilden kurze Lesetexte, Hörtexte, Diagramme, Bilder und Video bzw. Film. Bewusst werden auch in regelmäßigen Abständen Kunstwerke oder Musik als Sprechansatz eingesetzt.</p> <p>Verschiedene Formen der mündlichen Äußerung sollen geübt werden: Sprechen mit einem Partner (Dialog), Gruppenarbeit mit Präsentation im Plenum, persönliche Meinungsbildung zu einem Thema (Diskussion), Erfinden von Geschichten, freies Sprechen. Je nach Interesse der Teilnehmer können kurze Präsentationen (Kurzreferate) oder auch Grammatikübungen in den Unterricht eingefügt werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Kennen Lernen 2. Miteinander (Familie, Freunde, Kollegen) 3. 4. 5. Reise 6. 7. 8. Medien 9. 10. 11. Sport 12. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme und mündliche Mitarbeit; Kurzreferat oder eine schriftliche Leistung; Mündliche Prüfung.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	上級ドイツ語(会話)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Siehe Text zum Sommersemester		<ol style="list-style-type: none"> 1. Verkehr 2. 3. 4. Stadt und Land 5. 6. 7. Menschen und Gesellschaft 8. 9. 10. Erleben der Fremde 11. 12. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme und mündliche Mitarbeit; Kurzreferat oder eine schriftliche Leistung; Mündliche Prüfung.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	上級ドイツ語 (会話)	担当者	M. 鮎貝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs soll Gelegenheit geben, Hörverstehen zu schulen und die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks zu erproben. Dabei ist zu bedenken: je größer das Vokabular, desto besser die Kommunikationsmöglichkeit. Es sind daher auch Übungen zur Wortschatzerweiterung geplant.</p> <p>Das Thema der Woche soll jeweils durch ein Kurzreferat eines Teilnehmers oder einer Teilnehmerin eingeführt werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Vorstellung 2. Gespräche über Familie u. Freunde 3. Referat. Aktuelles Thema 4. Referat. Reisepläne. Reiseroute in Deutschland. 5. Zusammenstellung. e. Reiseroute 6. Haustiere, u. a. Nehmen Sie Haustiere mit auf die Reise? 7. Referat. Tagesnachrichten 8. Referat. Märchenfiguren 9. Wie verhalten sich die Figuren in bestimmten Märchen? 10. Referat. Aktuelles Thema 11. Referat. Wochennachrichten 12. Hörtest und Zusammenfassung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
JUMA und Kopien, die im Unterricht verteilt werden.		Regelmäßige Teilnahme, Referat, Hörtest am Ende des Semesters.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	上級ドイツ語 (会話)	担当者	M. 鮎貝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Fortsetzung des Sommersemesters)</p> <p>Nach dem Kurzreferat wird in Gruppen- oder Partnerarbeit zu dem Thema Stellung genommen. Die Themenauswahl (zur Orientierung siehe nebenstehende Kursplanung) kann je nach Interesse der Teilnehmer erweitert werden. Zur Verfügung stehen Kassetten, CD, Videos und ein Film.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Ereignisse in den Sommerferien 2. Ausgewählte Fabeln 3. Referat. Verhalten sich die Tiere in den Fabeln wie Menschen? 4. Vorstellung eines Lieblingsbesuches 5. Referat. Mögen Sie Popmusik? 7. Referat. Texte der Popp-Songs 8. Referat. Deutsche Regisseure 9. Referat. Film 10. Referat. Film und Diskussion 11. Referat. Wer war Bertolt Brecht? 12. Hörtest und Zusammenfassung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
JUMA und Kopien, die im Unterricht verteilt werden.		Regelmäßige Teilnahme, Referat, Hörtest am Ende des Semesters	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	上級ドイツ語(会話)	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Stunde wollen wir anhand selber gewählter Materialien das Deutsch verbessern.		1. Stunde: - Erklärung des Lehrers - Bestimmung der Themen 2. und weitere Stunden: Vorträge der Studenten	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席・積極的に参加・スピーチ	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	上級ドイツ語(会話)	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	上級ドイツ語 (作文)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs.</p> <p>Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten.</p> <p>Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil "Schriftlicher Ausdruck" der ZD-Pruefung geplant.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt		Zur Benotung wird am Ende des Semesters die Loesung einer solchen Briefaufgabe herangezogen.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	上級ドイツ語 (作文)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs.</p> <p>Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten.</p> <p>Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil "Schriftlicher Ausdruck" der ZD-Pruefung geplant.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt		Zur Benotung wird am Ende des Semesters die Loesung einer solchen Briefaufgabe herangezogen.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中世ドイツ語 I 中世ドイツ語	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen von den althochdeutschen Anfängen bis ins Frühneuhochdeutsche einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache zu vermitteln. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturelle Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und passende Filme ansehen.</p>		<p>Festlegung der Texte und Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern unter Berücksichtigung individueller Interessen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird in Kopien verteilt			

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中世ドイツ語 II 中世ドイツ語	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(春) 03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語学概論Ⅰ ドイツ語学概論a ドイツ語学概論	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標： ドイツ語は世界でおおよそ1億の人々によって話されている。諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとする事は、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある。この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。</p> <p>講義概要： 春学期では、これから新しくドイツ語を学びつつある諸君とともに、そして他方、今までドイツ語を学んできた諸君と、ドイツ語のいろいろな姿を観察し、そのおおよその全体像を把握していこうと思う。名づけて、「ドイツ語の森—散策コース」。和気あいあいと、楽しみながら散歩をして、ドイツ語がどのようなものなのか見てみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本ではどのようにドイツ語が学ばれてきたか。いま、なぜドイツ語か。 2. ドイツ語の文字とその歴史 3. ドイツ語って格変化と人称変化ばかりで... 4. ドイツ語の疑問に答える 5. 昔のドイツ語はどんなだった? 6. 英語や他の言語との結びつきは? 7. 南の人のドイツ語は北の人にはわかりにくいのです 8. 書き言葉はいつごろつくられたのか 9. ドイツにはどんな地名や人の名があるか 10. 現代ドイツ語ってどういう特徴があるの? 11. ドイツ語の森の散歩を振り返って 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：入門のために：カール＝ディーター・ビュンディング 千石喬川島敦夫訳：『言語学入門』（白水社） 黒田龍之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書） その他第1回目の講義で指示</p>		<p>春学期の筆記試験と2000字程度のレポートによる 受講者に対する要望：講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に講義に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう。</p>	

05年度(秋) 03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語学概論Ⅱ ドイツ語学概論b ドイツ語学概論	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標： ドイツ語は世界でおおよそ1億の人々によって話されている。諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとする事は、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある。この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。</p> <p>講義概要： 秋学期は、いささかしんどいかもしれないが、春学期のドイツ語の森の散歩で観察した、さまざまな言語現象をさらに深く掘り下げるための、いわば、研究、調査用のアイテムを探し求めてドイツ語の森を探検する。名づけて、「ドイツ語の森—探検・征服コース」。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語はどうやって研究するの（言語研究の方法1） 2. 言語における点と線（言語研究の方法2） 3. グリムってあのグリム童話の？（言語研究の歴史1） 4. ドイツの文法学者たち（言語研究の歴史2） 5. ドイツ語研究 1. 語彙と形態 6. " " 2. 文の構造 7. " " 3. ことばの意味（1） 8. " " 4. ことばの意味（2） 9. " " 5. 道具としての言語（語用論） 10. " " 6. 音声と音韻（音声学と音韻論） 11. 日本語とドイツ語を参照する（対照言語学的研究） 12. ことばと文化（まとめ） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：入門のために：カール＝ディーター・ビュンディング 千石喬川島敦夫訳：『言語学入門』（白水社） 黒田龍之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書） その他授業中に紹介する。</p>		<p>秋学期の筆記試験と2000字程度のレポートによる 受講者に対する要望：講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう。</p>	

05年度(春)	ドイツ文学概論 I	担当者	山本 淳
03年度以降(春)	ドイツ文学概論 a		
02年度以前(春)	ドイツ文学概論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1) ドイツ(語圏)文学を代表するできるだけ多くの作品を読む。(さしあたりは翻訳で。受講者には、テーマごとに課題作品を読み感想を書いてもらう。)</p> <p>2) ドイツ(語圏)文学の歴史的展開を、社会/文化史的な側面と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文学現象のアクチュアリティについて共時的に考える。</p> <p>3) 「文学」とは何か?さらにそれに「ドイツ」という冠をつけることの意味は何か?を考える。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期は、中世から19世紀までを、また秋学期は19世紀末から20世紀を扱う。事典的な事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代に見られる文学現象の特徴を端的に示すような作品・トピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ(語圏)文学の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像化された作品、資料も適宜利用する。また時間が許せば、文学理論の諸相についても触れる。</p>		<p>1 宮廷文学</p> <p>2 人文主義 / 宗教改革</p> <p>3 同上</p> <p>4 三十年戦争 / バロック</p> <p>5 啓蒙主義</p> <p>6 同上</p> <p>7 シュトルム・ウント・ドラング</p> <p>8 古典主義</p> <p>9 ロマン主義</p> <p>10 同上</p> <p>11 リアリズム</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度(秋)	ドイツ文学概論 II	担当者	山本 淳
03年度以降(秋)	ドイツ文学概論 b		
02年度以前(秋)	ドイツ文学概論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1) ドイツ(語圏)文学を代表するできるだけ多くの作品を読む。(さしあたりは翻訳で。受講者には、テーマごとに課題作品を読み感想を書いてもらう。)</p> <p>2) ドイツ(語圏)文学の歴史的展開を、社会/文化史的な側面と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文学現象のアクチュアリティについて共時的に考える。</p> <p>3) 「文学」とは何か?さらにそれに「ドイツ」という冠をつけることの意味は何か?を考える。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期は、中世から19世紀までを、また秋学期は19世紀末から20世紀を扱う。事典的な事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代に見られる文学現象の特徴を端的に示すような作品・トピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ(語圏)文学の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像化された作品、資料も適宜利用する。また時間が許せば、文学理論の諸相についても触れる。</p>		<p>1 世紀末</p> <p>2 ユーゲントシュティール / 表現主義</p> <p>3 第1次大戦 / ダダイズム</p> <p>4 ヴァイマル共和国時代 / 黄金の二十年代</p> <p>5 同上</p> <p>6 新即物主義</p> <p>7 ナチ政権下の文学 / 亡命文学</p> <p>8 同上</p> <p>9 第2次大戦後 / 冷戦下の文学</p> <p>10 同上</p> <p>11 「壁」崩壊前後</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語学各論 a ドイツ語学各論	担当者	諏訪 功
講義目的、講義概要		授業計画	
教科書に即して、「文成分」、機能動詞、「受動の問題」など、ドイツ文法の主要トピックスについて学ぶ。		教科書を精読する。練習問題は学生諸君にやってもらう。必要に応じて、他のテキストを読むこともあり、また作文、小レポート等を課すこともある。☐	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中級のドイツ文法と文章論』(Deutsche Grammatik und Satzlehre für Fortgeschrittene) 山本 尤編 同学社 刊		平常点、出席点、試験成績など、総合的に評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語学各論 b ドイツ語学各論	担当者	諏訪 功
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、教科書に即して、「文成分」、「機能動詞」、「受動の問題」など、ドイツ文法の主要トピックスについて学ぶ。		教科書の説明を中心に、補足説明を交えつつ授業を進める。練習問題は学生諸君にやってもらう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中級のドイツ文法と文章論』(Deutsche Grammatik und Satzlehre für Fortgeschrittene) 山本 尤編 同学社 刊		平常点、出席点、試験成績など、総合的に評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ文学各論 a ドイツ文学各論	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：批評的な観点を持ちながら文学テクストを読むということは一体どういうことなのかを、具体的に理解できるようにする。また批評的観点が複数・多様であることを了解し、その前提で文学作品の解釈を通じて議論できる能力を身につける。</p> <p>概要：批評の対象として扱う文学作品はゲーテの書いたもの、特に散文(Roman など)を用いる。今学期ではまず最初に、ゲーテ：『若きウェルテル』の悩みを扱うので、どの翻訳でもかまわないので読んでおくこと。</p> <p>また文学作品を読む作業と並行して、作品に関する批評文を読み解く。この学期では『ウェルテル』と並行してロラン・バルトのテクストを複数回にわたって読んでいくつもりである。</p> <p>また、ゲーテに関して『ヴィルヘルム・マイスター』を取り上げ、この小説の問題点を指摘し、分析を施したいと思っている。</p>		<p>1 導入</p> <p>2 ゲーテについて一般的な紹介</p> <p>3 『若きウェルテルの悩み』の時代背景</p> <p>4 『若きウェルテルの悩み』読解 I</p> <p>5 『若きウェルテルの悩み』読解 II</p> <p>6 近代小説における「恋愛」の意味—バルトを参考に I</p> <p>7 近代小説における「恋愛」を意味—バルトを参考に II</p> <p>8 『ヴィルヘルム・マイスター』の文学史的意義</p> <p>9 『ヴィルヘルム・マイスター』の内容紹介など</p> <p>10 『ヴィルヘルム・マイスターの徒弟時代』批評 I</p> <p>11 『ヴィルヘルム・マイスターの徒弟時代』批評 II</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で扱うゲーテの作品については授業計画にある通り(翻訳で読める)。講義で扱うテクストからの断片はコピーして配布。あとは講義の導入で指示。		人数によるが、レポートを課す事を考えている。具体的には講義の導入で指示。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ文学各論 b ドイツ文学各論	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：批評的な観点を持ちながら文学テクストを読むということは一体どういうことなのか、具体的に理解できるようにする。また批評的観点が複数・多様であることを了解し、その前提で文学作品の解釈を通して議論できる能力を身につける。</p> <p>概要：春学期と同様に、批評の対象としてゲーテの文学作品を扱う。特に散文作品を用いるが、今学期はまず、ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』から扱う。前学期から継続している部分もあるので、春学期とともに通年で受講することを推奨するが、後期から受講する学生にも当然配慮する。</p> <p>後期はヴァルター・ベンヤミンの批評文の読解に時間を割くつもりである。特にゲーテの『親和力』に関するベンヤミンの論考に焦点をあてたいが、勿論ゲーテの書いたものにも触れることになる。</p>		<p>1 導入(春学期にやったことの概略も紹介する。)</p> <p>2 ゲーテおよび『ヴィルヘルム・マイスター』などの紹介</p> <p>3 『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』批評 I</p> <p>4 『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』批評 II</p> <p>5 近代小説と核家族制度—『マイスター』総括</p> <p>6 ロマーンと批評文学</p> <p>7 ヴァルター・ベンヤミンについて</p> <p>8 『親和力』の紹介</p> <p>9 『親和力』読解(ベンヤミンのゲーテ論を軸に) I</p> <p>10 『親和力』読解(ベンヤミンのゲーテ論を軸に) II</p> <p>11 ベンヤミンの『ゲーテの親和力』以外の批評作品</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で扱うゲーテの作品については授業計画にある通り(翻訳で読める)。講義で扱うテクストからの断片はコピーして配布。あとは講義の導入で指示。		人数によるが、レポートを課す事を考えている。具体的には講義の導入で指示。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	ドイツ語学・文学特殊講義	担当者	E. モイテン
講義目的、講義概要		授業計画	
Einführung in Nietzsches Kunstphilosophie Ziel des Seminars ist es, die Voraussetzungen und die zentrale Problemstellung der „ <i>Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik</i> “ in den Blick zu bekommen. Zu diesem Zweck sollen die romantische Forderung nach einer ‚Neuen Mytheologie‘ ebenso vorgestellt werden wie die pessimistische Philosophie Schopenhauers und Wagners Konzept des ‚Gesamtkunstwerks‘. Das soll in der Form der Diskussion von Textausschnitten geschehen, die ich auswählen und zu Beginn des Seminars verteilen werde. Abgeschlossen werden soll das Seminar mit der Lektüre einiger Passagen aus „ <i>Über Wahrheit und Lüge im außermoralischen Sinne</i> “.		授業開始時に指示。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に指示。		授業開始時に指示。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春)	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. ヴェルナー
02年度以前(春)	ドイツ語講読(語学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Inhalt dieser Veranstaltung ist, leichte Texte über das Thema Sprache zu lesen.</p> <p>Wir lernen und üben Lesen und Verstehen von Texten durch:</p> <ul style="list-style-type: none"> -Hören und selbst Lesen, -Textanalyse -Satzanalyse in Satzteil und Wortarten, -Bestimmung von inhaltlich wichtigen Teilen des Textes -Zusammenfassung des Textes. <p>Das Ziel ist, unbekannte deutsche Texte leicht und schnell zu verstehen.</p>		<p>Wir beginnen mit interessanten einfachen Texten über Sprache und Sprachgeschichte.</p> <p>Die Teilnehmer können dann Texte über Sprachpolitik und Fremdwörter, Soziolinguistik (Standardsprache und Varianten, Jugendsprache) Redewendungen oder andere Themen wählen.</p> <p>Die Texte werden im Laufe des Semesters schwieriger. Es werden Texte aus verschiedenen Bereichen gelesen, analysiert und zusammengefasst.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		Aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, 試験による。	

03年度以降(秋)	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. ヴェルナー
02年度以前(秋)	ドイツ語講読(語学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Inhalt dieser Veranstaltung ist, leichte Texte über das Thema Sprache zu lesen.</p> <p>Wir lernen und üben Lesen und Verstehen von Texten durch:</p> <ul style="list-style-type: none"> -Hören und selbst Lesen, -Textanalyse -Satzanalyse in Satzteil und Wortarten, -Bestimmung von inhaltlich wichtigen Teilen des Textes -Zusammenfassung des Textes. <p>Das Ziel ist, unbekannte deutsche Texte leicht und schnell zu verstehen.</p>		Fortsetzung des Sommersemesters.	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		Aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, 試験による。	

03年度以降(春)	ドイツ語講読(語学)	担当者	諏訪 功
02年度以前(春)	ドイツ語講読(語学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語の心態詞(ja, doch など)の意味と用法を整理し、それらを含む短文を集めた教科書を用い、心態詞の使い方を体得する。		教科書を精読する。必要に応じて、他のテキストを読むこともある。また作文をやってもらうこともある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ドイツ語表現レベルアップ』 中島耕太郎編 同学社 刊		平常点、出席点、試験成績など、総合的に評価する。	

03年度以降(秋)	ドイツ語講読(語学)	担当者	諏訪 功
02年度以前(秋)	ドイツ語講読(語学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、ドイツ語の心態詞の使い方の例を集めた教科書を精読する。		教科書を精読する。予習、復習を怠らぬこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ドイツ語表現レベルアップ』 中島耕太郎編 同学社 刊		平常点、出席点、試験成績など、総合的に評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(語学) ドイツ語講読(語学) I・II	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は比較的平易なテキストを媒介にして、1. 文法知識の徹底と強化、2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成を図ります。併せてドイツ語検定合格を視野に入れて、種々の注意を喚起します。</p> <p>春semesterにおいては上述の1. に重きを置きます。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に徹底演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭(ないしは板書)での解答を求めるとなります。</p>		<p>受講者の人数と、前年度までの文法知識の集積度に左右されるため、シラバスの執筆段階でペースを定めることはできません。</p> <p>数回、経験則に基づく標準的な進度で講義を行い、受講者の「レベル」を把握した上で改めて講義時に告知します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントにて配布。 独和辞典及び文法の資料(手持ちの参考書等必携)</p>		<p>出席重視。最終講義時にペーパーテスト実施。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(語学) ドイツ語講読(語学) I・II	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋semesterでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は上述の2. に移行させます。というのも、物語の概要を把握すること自体は可能でも、これを「もともと日本語で書かれていた」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。各々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の寄せ集め」からの脱却を図ります。</p>		<p>春semester中の受講者の有りよう、semester終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ、適切に対処します。</p> <p>配布するテキストの難度を上げる場合もあり。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>前期と同じ。</p>		<p>前期と同じ。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(文学) ドイツ語講読(文学) I・II	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>使用テキストは、簡単なストーリーを書いた5~10行前後の短い文章。これを1時間に一つか二つ読んで、ドイツ語の単語や表現を実際に使って見る。</p> <p>文章はとても今風で、口語調。俗語的表現を多く含んだ文なので、これを大いに活用し、この時間を語彙と表現の練習時間にしたい。</p> <p>予習は要らない。(言ってもどうせやらないでしょうが・・・) 辞書を忘れないように。</p>		<p>毎時間1~2つの文章を読み、その後新出単語・表現について練習。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを用意する。		<p>小テストを複数回行い、その総合得点をもって評価とする。</p> <p>7回以上欠席すると単位は認められない。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	同上	担当者	同上
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春)	ドイツ語講読(文学)	担当者	酒井 府
02年度以前(春)	ドイツ語講読(文学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在日本語でもドイツ語でも文学になじむ機会が余りにも少ない。文学や芸術はその内に多くの思想を含み、その時代を語り、人生にとって欠くべからざるものである。従ってこの授業では、小説を中心に文学に触れられるようにしていきたい。その上、この講読では、多くの作家の短篇小説、とりわけドイツの地方にかかわる短篇を読むことによって、現代のドイツを理解する手がかりとしたい。</p>		<p>文学的に、場合によっては難解な箇所もある。一日二分の一ページから四分の三ページ読むことを目指す。学生諸君には二週目あたりから、次週の和訳担当箇所を指示する。一人あたり、五行より七・八行とする。その後で私が和訳する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Deutsche Orte (学生諸君にはコピーした教材を渡す。)</p>		<p>受講生の人数にもよるが、最低限二回は和訳させ、それと期末試験で評価する。</p>	

03年度以降(秋)	ドイツ語講読(文学)	担当者	酒井 府
02年度以前(秋)	ドイツ語講読(文学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
上記と同じ		上記と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記と同じ		上記と同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(文学) ドイツ語購読(文学) I・II	担当者	洲崎 恵三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語読解力を養成しつつ、「トーマス・マン」文学入門として、まず「カトヤ・マン七十歳誕生日記念スピーチ」を読み、次に晩年の『日記』(1953-55年)を読む。仕事、文通、旅行、家族、交友、健康と病気、老い、時代の問題、などがテーマ。</p> <p>『マン家の人々』、『ブデンプコーク家の人々』、『魔の山』、『ヴァイマルのコッテ』、『ファウストゥス博士』などの映像も参考に見る。</p>		<p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung: 年表に基づきトーマス・マンの生涯と作品解説。 2. 『マン家の人々』など、映像観賞。 3. 4. 5. 6. <i>Katja Mann zum siebzigste Geburtstag</i> 7. 8. 『日記』1954年: Taormina (Sizilien) 9. 10. 11. Rom, Fiesole (Firenze) 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> * Thomas Mann: <i>Katja Mann zum siebzigste Geburtstag</i> In: Gasammelte Werke in 13 Bänden. XI, 521-526 * Thomas Mann: <i>Tagebücher 1953-1955</i>, Fischer Verlag, 1995. * テキストはコピーする。 <p>参考文献: トーマス・マン『日記 1946-48』 (紀伊国屋書店、2003)</p>		<p>評価方法:</p> <p>日常: 各自の発表(発音と和訳と文法)を毎時間評価。1学期に少なくとも2回以上みずから手をあげて発表して下さい。日常の発表がなければ評価できません。</p> <p>評価: 1) 筆記試験、辞書持込で、速読力、全体の把握力を評価。 2) 各自の訳を提出。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(文学) ドイツ語購読(文学) I・II	担当者	洲崎 恵三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語読解力を養成しつつ、「トーマス・マン」文学入門として、まず「カトヤ・マン七十歳誕生日記念スピーチ」を読み、次に晩年の『日記』(1953-55年)を読む。仕事、文通、旅行、家族、交友、健康と病気、老い、時代の問題、などがテーマ。</p> <p>『マン家の人々』、『ブデンプコーク家の人々』、『魔の山』、『ヴァイマルのコッテ』、『ファウストゥス博士』などの映像も参考に見る。</p>		<p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トーマス・マンの作品『魔の山』など映像観賞。 2. 3. 『日記』1954年: Waldhaus (Zürich) 4. 5. 6. 7. Kilchberg 8. 9. St. Maria 10. 11. Sils Maria 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> * Thomas Mann: <i>Katja Mann zum siebzigste Geburtstag</i> In: Gasammelte Werke in 13 Bänden. XI, 521-526 * Thomas Mann: <i>Tagebücher 1953-1955</i>, Fischer Verlag, 1995. * テキストはコピーする。 <p>参考文献: トーマス・マン『日記 1946-48』 (紀伊国屋書店、2003)</p>			

03年度以降(春)	ドイツ語講読(文学)	担当者	山本 淳
02年度以前(春)	ドイツ語講読(文学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語で書かれた短編小説を味わう。 2) authentischなテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。 3) Bertolt Brechtの作品およびその活動について学ぶ。		テキストの訳読 および 作家・作品解説	
講義概要 Bertolt Brechtが“Kalendergeschichten”(「暦物語」)の中におさめた短編小説“Der Mantel des Ketzers”(「異端者の外套」)を読み進めていく。順調に進めば、さらに他の作品も味わってみる。 最初の時間に、授業についてのもう少し詳しい説明と簡単なBrecht概説を行う予定。			
テキスト、参考文献		評価方法	
Brecht, Bertolt: Werke. Grosse kommentierte Berliner und Frankfurter Ausgabe. (Suhrkamp) Bd. 18, 1995, S. 374-382. (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。	

03年度以降(秋)	ドイツ語講読(文学)	担当者	山本 淳
02年度以前(秋)	ドイツ語講読(文学) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語で書かれた短編小説を味わう。 2) authentischなテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。 3) Bertolt Brechtの作品およびその活動について学ぶ。		テキストの訳読 および 作家・作品解説	
講義概要 Bertolt Brechtが“Kalendergeschichten”(「暦物語」)の中におさめた短編小説“Der Mantel des Ketzers”(「異端者の外套」)を読み進めていく。順調に進めば、さらに他の作品も味わってみる。 最初の時間に、授業についてのもう少し詳しい説明と簡単なBrecht概説を行う予定。			
テキスト、参考文献		評価方法	
Brecht, Bertolt: Werke. Grosse kommentierte Berliner und Frankfurter Ausgabe. (Suhrkamp) Bd. 18, 1995, S. 374-382. (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	ドイツ語学・文学特殊講読	担当者	E. モイテン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutsche Kultur zwischen Wiener Kongress und Vormärz</p> <p>In diesem Seminar soll die Restaurations-epoche in ihrer ganzen Spannweite (zwischen politisch engagierter Vormärz- und vermeintlich eskapistischer Biedermeier-Kultur) vorgestellt werden. Dabei soll der kulturgeschichtliche Aspekt dominieren. Malerei, Architektur und Interieur dieser Zeit sollen ebenso diskutiert werden wie ausgewählte literarische und philosophische Texte und Zeugnisse der politischen Geschichte.</p> <p>Der Unterricht soll Seminarform haben. Die Studenten sollen einzelne Themen selbständig bearbeiten und in Referatform vorstellen. Die notwendigen Materialien werden zur Verfügung gestellt. Videofilme, Diareihen und Bildbände sollen neben Texten in umfangreichem Maße eingesetzt werden.</p>		授業開始時に指示。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に指示。		授業開始時に指示。	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(春)	ドイツ文化史概論 I	担当者	渡部 重美
03年度以降(春)	ドイツ文化史概論 a		
02年度以前(春)	ドイツ文化史概論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： これからドイツ語圏の文化について学んでいこうと思っている学生諸君のために、文化史上の基本概念について説明したり、あるいは、顕著な歴史的・文化史的事象について概観して行く。この講義が、学生諸君が自分のテーマを見つけ、あるいはすでに持っているテーマを深めるための一助となれば幸いである。</p> <p>講義概要： ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分にそって説明・概観して行くが、場合によっては同一テーマのもとに異なる時代を関連付けて論じるなどの寄り道もしたいと思っているので、春学期・秋学期通しての履修が望ましい。 また、できる限り音声、映像資料なども使用したいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（講義についてのより詳しい説明、評価方法等についての確認など） 2 中世の文化 I 3 中世の文化 II 4 宗教改革の時代 I 5 宗教改革の時代 II 6 三十年戦争とバロック文化 I 7 三十年戦争とバロック文化 II 8 啓蒙の時代 I 9 啓蒙の時代 II 10 啓蒙の時代 III 11 啓蒙の時代 IV 12 （予備日） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布する。		学期末の筆記試験と授業への参加度（授業中に作業をしてもらったり、あるいは授業の最後に感想を書いてもらう）による。	

05年度(秋)	ドイツ文化史概論 II	担当者	渡部 重美
03年度以降(秋)	ドイツ文化史概論 b		
02年度以前(秋)	ドイツ文化史概論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 春学期に引き続き、これからドイツ語圏の文化について学んでいこうと思っている学生諸君のために、文化史上の基本概念について説明したり、あるいは、顕著な歴史的・文化史的事象について概観して行く。</p> <p>講義概要： 春学期と同じで、ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分にそって説明・概観して行くが、場合によっては同一テーマのもとに異なる時代を関連付けて論じるなどの寄り道もしたいと思っているので、春学期・秋学期通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（講義についてのより詳しい説明、評価方法等についての確認など） 2 フランス革命とドイツ、ドイツ・ロマン派 I 3 フランス革命とドイツ、ドイツ・ロマン派 II 4 フランス革命とドイツ、ドイツ・ロマン派 III 5 ブルジョアの時代と反時代的考察 I 6 ブルジョアの時代と反時代的考察 II 7 世紀末の文化 8 ワイマール文化 I 9 ワイマール文化 II 10 ナチズムの時代と文化 I 11 ナチズムの時代と文化 II 12 （予備日） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布する。		学期末の筆記試験と授業への参加度（授業中に作業をしてもらったり、あるいは授業の最後に感想を書いてもらう）による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの思想 a ドイツの思想	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テキストは1963年夏学期のアドルノによる講義録である。このテキストに評釈を付す形で講義を進める。</p> <p>アドルノの講義は毎週2回行われ、第1回5月7日から第17回7月25日までである。テーマから推察されるように、主としてカントをめぐる考察が進められている。カントは世界を、現象の世界とその現象の背後にあって認識不可能な物自体の世界に分ける二元論の立場をとった。そして人間は現象の世界にあっては厳密な自然必然性に支配されているが、物自体の世界では自由であるとみなした。カントの道徳哲学はこの物自体の世界にかかわる。しかし自由に基づいて道徳法則に従っても、それが現象の世界にどのような作用を及ぼすのか説明していないし、いったん現象の世界に入れば自然必然性に支配されるほかにないのだから自由ではない。アドルノは20世紀におけるアウシュヴィッツの経験を踏まえて、カントのこのアポリアに取り組んでいる。</p> <p>授業ではアドルノのテキストを読みながら、評釈を加えるが、カントの基本的なテルミノロジーについては、その都度解説する。</p>		<p>1: カントとアドルノの紹介 以下アドルノが毎回取り上げているテーマのひとつを挙げておく。</p> <p>2: 『道徳教育の諸問題』より、理論分野としての道徳哲学ほか</p> <p>3: 道徳という言葉に対する違和感ほか</p> <p>4: 理性の二重性格ほか</p> <p>5: 因果性と自由ほか</p> <p>6: 因果性の原理とアンチノミーの必然性ほか</p> <p>7: 理性の自然(本性)ほか</p> <p>8: 理論と実践ほか</p> <p>9: アプリオリと経験の区別ほか</p> <p>10: 自由の法則</p> <p>11: 法則と自由の二元論ほか</p> <p>12: まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テオドール・アドルノ著『道徳哲学の諸問題』、作品社(刊行準備中)		出席、授業のあと随時提出を求める簡単なメモ(感想など)、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの思想 b ドイツの思想	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続いてアドルノの『道徳哲学の諸問題』をとり上げる。後半は、アドルノのカント観、文学観を解説する。</p>		<p>1: 『ハムレット』ほか</p> <p>2: 自己決定ほか</p> <p>3: 善意志と悪意志ほか</p> <p>4: 欲動の抑圧ほか</p> <p>5: 心情倫理</p> <p>6: イブセン作『野鴨』ほか</p> <p>7: 偽りの生活に対する抵抗ほか</p> <p>8: アドルノ著『道徳哲学の諸問題』のまとめ</p> <p>9: アドルノ・ホルクハイマー著『啓蒙の弁証法』におけるカント観</p> <p>10: アドルノ著『否定弁証法』におけるカント観</p> <p>11: アドルノ著『文学ノート』における芸術と社会のかかわり</p> <p>12: まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テオドール・アドルノ著『道徳哲学の諸問題』、作品社、(刊行準備中)		出席、授業のあと随時提出を求める簡単なメモ(感想など)、試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの音楽 a ドイツの音楽	担当者	木村佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽(いわゆるクラシック音楽)に親しんでいただく授業です。中世から現代までの音楽史上のさまざまな時代に書かれた多様な音楽を、たくさんの録音資料(主にCD)で聴いていただきます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。</p> <p>なお、昨年度までの授業の進め方から一部変更し、個別の作品を何度もじっくり聴く時間も設けたいと思います。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<p>各回ごとにトピックを定めてお話しします。春学期には、中世から18世紀後半までに書かれた音楽作品を扱う予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜紹介します。		学期末試験。また、授業中に感想などを書いてもらうことがあります。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの音楽 b ドイツの音楽	担当者	木村佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽に親しんでいただく授業です。中世から現代までの音楽史上のさまざまな時代に書かれた多様な音楽を、たくさんの録音資料(主にCD)で聴いていただきます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期は、春学期の授業内容を知っていることを前提に講義を行いますので、通年で履修するほうが理解しやすいと思います。</p> <p>なお、昨年度までの授業の進め方から一部変更し、個別の作品を何度もじっくり聴く時間も設けたいと思います。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は静粛を守ってください。私語等で他の受講生に迷惑をかける学生には、退室を指示することがあります。</p>		<p>各回ごとにトピックを定めてお話しします。秋学期には、18世紀終わり頃から20世紀に書かれたいわゆるクラシック音楽作品と、ドイツ語圏の国歌、民謡などを扱う予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜紹介します。		学期末試験。また、授業中に感想などを書いてもらうことがあります。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	ドイツの美術 a ドイツの美術	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>春学期は、中世からルネサンス期いたるドイツの美術を建築、絵画、彫刻を中心に、多くの図版資料を用いながら概観します。各時代を代表する主要作品を知ることによって、それぞれの時代の芸術様式の特徴を認識し、ドイツ美術への理解を深めることを目的とします。</p> <p>注意事項：</p> <p>講義の中では、自分の言葉で作品を記述するディスクリプションの練習も行います。</p>		<p>各回ごとにテーマを決めて講義を進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献はその都度指示します。		筆記試験。講義の中で行った各自の作品のディスクリプションも評価の対象とします。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	ドイツの美術 b ドイツの美術	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>秋学期は、春学期に概観したドイツ美術を、15 世紀末から 16 世紀初めにかけて活躍したドイツ最大の画家アルブレヒト・デューラー (1471-1528) の生涯とその作品を中心に扱うことで、更に深く掘り下げることを目的とします。</p> <p>デューラーは、ドイツのニュルンベルクという都市に生まれ、その後二度のイタリア旅行を経て、ドイツ後期ゴシックの芸術様式に、新たにイタリア・ルネサンスの要素を持ち込むことで、従来のドイツ美術とは全く異なる様式を確立しました。</p> <p>この講義では、デューラー作品の様式変遷を初期から晩年にいたるまで概観します。</p>		<p>ニュルンベルクでの徒弟時代、遍歴の旅、第一次イタリア旅行、1500 年までの活動期、第二次イタリア旅行、晩年のネーデルラント旅行という、デューラーの生涯の流れに沿いながら、各時代を代表する作品を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、その都度指示します。		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの演劇 a ドイツの演劇	担当者	越部 暹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように〈通事的〉に語るのではなく、今日の視点から〈共時的〉に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ(や日本の)演劇の今日における存在意義を問うことにある。</p> <p>講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。</p> <p>前期はB.プレヒト劇とH.ミュラー劇を中心に講じるが、</p> <p>1. 彼らが登場する前提事項、2. 彼らの劇作の〈両面価値〉の性格、つまり時・所が替われば別の視点が見えてくる性格——を強調して論じたい。</p>		<p>1 オリエンテーション：成績評価方法、授業の進め方・受け方など。</p> <p>2 参考文献の指示。ドラマとは何か。ドラマトゥルギーの変遷。</p> <p>3～7 プレヒトの『三文オペラ』や4大作品の紹介。(ビデオ併用)</p> <p>8 プレヒトの〈教育劇〉の今日性</p> <p>9 ミュラーの〈教育劇〉の今日性</p> <p>10～11 ミュラー劇の紹介。(ビデオ併用)</p> <p>12 (教場で) レポートの正書・提出を求める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適時、コピー・プリントを配布する。参考文献については教場で述べる。		最終授業時に、教場で(所定の用紙に)レポートを正書・提出してもらう。また、積極的な授業参加度を評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの演劇 b ドイツの演劇	担当者	越部 暹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように〈通事的〉に語るのではなく、今日の視点から〈共時的〉に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ(や日本の)演劇の今日における存在意義を問うことにある。</p> <p>講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。</p> <p>後期は P. ハントケ劇、B. シュトラウス劇、E. イェリネク劇を中心に講じるが、彼らの劇作の〈展示場〉の性格や〈作者の不在性〉について、詳しく論じたいと思う。</p>		<p>1 オリエンテーション：成績評価方法、授業の進め方・受け方など。</p> <p>2 参考文献の指示。ドラマとは何か。ドラマトゥルギーの現在。〈意識の演劇〉など。</p> <p>3～4 初期の P. ハントケ劇の紹介。(数点の映画ビデオ併用)</p> <p>5～7 B. シュトラウス劇とベルリン〈シャウビューネ劇団〉の紹介。(数点の映画ビデオ併用)</p> <p>8～11 E. イェリネクの〈コラージュ劇〉の紹介。(ビデオ併用)</p> <p>12 (教場で) レポートの正書・提出を求める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適時、コピー・プリントを配布する。参考文献については教場で述べる。		最終授業時に、教場で(所定の用紙に)レポートを正書・提出してもらう。また、積極的な授業参加度を評価する。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	ドイツ思想・芸術各論 a ドイツ思想・芸術各論	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
KOMPONISTEN IM WANDEL DER ZEITEN Im 17. und 18. Jahrhundert waren Komponisten in fürstlichen, städtischen oder kirchlichen Diensten tätig. Erst zu Beginn des 19. Jahrhunderts konnten sie sich als „freie“ Künstler durchsetzen. Während des 19. Jahrhunderts entstanden neue Berufe im bürgerlichen Musikleben. Wie wirken sich die geschichtlichen und sozialen Bedingungen auf das Leben eines Komponisten aus? Wie spiegeln sich die an ihn gestellten Anforderungen in seinem Werk? In der Vorlesung werden unter diesen Aspekten die Biografien und ausgewählte Werke von verschiedenen Komponisten des 18. und 19. Jahrhunderts vorgestellt. Im Sommersemester: J. S. Bach, W. F. Bach, W. A. Mozart. Im Wintersemester: L. van Beethoven, F. Mendelssohn Bartholdy, F. Liszt, R. und C. Schumann Die Vorlesung wird überwiegend in deutscher Sprache gehalten. Kenntnisse des Noten lesens sind nicht erforderlich.		1. Einleitung: Die unterschiedlichen Aufgaben der Komponisten im Musikleben ihrer Zeit 2. Das Musikleben in der 1. Hälfte des 18. Jahrhunderts: Die Stellung der Komponisten und die Entstehung des bürgerlichen Konzerts 3. Johann Sebastian Bach: ein Komponist bei Hof und in der Stadt 4. Bach in Weimar und Köthen: Die Konzerte und Suiten 5. Bach in Leipzig: Die Kantate 6. Wilhelm Friedemann Bach: der gescheiterte „freie“ Künstler 7. Fortsetzung 8. Die Ausbildung des bürgerlichen Konzertwesens im 18. Jahrhundert 9. Wolfgang Amadeus Mozart in Wien: ein Komponist ohne feste Anstellung 10. Mozart als Organisator von Konzerten: die Klavierkonzerte und Sinfonien 11. Fortsetzung 12. Mozart als Opernkomponist	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme und Mitarbeit; Test oder schriftl. Referat (auf Deutsch)	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	ドイツ思想・芸術各論 b ドイツ思想・芸術各論	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Einführungstext: siehe Text zum Sommersemester		1. Einleitung: Zusammenfassung des Vorlesungsinhalts des Sommersemesters 2. Ludwig van Beethoven: der freie Künstler 3. Beethoven und seine Kammermusik 4. Beethovens Sinfonien 5. Felix Mendelssohn Bartholdy: der komponierende Dirigent 6. Mendelssohn als Dirigent in Leipzig: das Konzertrepertoire und seine Sinfonien 7. Mendelssohn beim Niederrheinischen Musikfest in Düsseldorf: das Oratorium 8. Das Virtuositentum im 19. Jahrhundert 9. Franz Liszt: der gefeierte Virtuose. Liszts virtuose Klaviermusik 10. Robert und Clara Schumann: das Virtuosen- und Komponistenehepaar 11. Robert Schumann: vom Klavier- und Liedkomponisten zum Komponisten sinfonischer Werke 12. Clara Schumann als Pianistin und Komponistin	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme und Mitarbeit. Test oder schriftliches Referat (auf Deutsch)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	桜井 より子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語のテキストを読み、読解力と思考力を養い、レポート(日本語)を書いて発表出来るようにする。</p> <p>今日、私たちの日常生活においても、環境汚染をはじめ、食品や医療、住居の安全性などの問題を把握し、自ら生活や生命を守ろうとするとき、かなりの科学的な知識が必要となってきています。その場合の科学的知識は単なる客観的、数量的な知識ではなく、人間中心の考え方に裏打ちされたものでなければなりません。</p> <p>この授業では、W. ハイトラー著『ゲーテ対ニュートン』をテキストにして、近代科学の先駆者ニュートンに対抗して独自の自然観を展開したゲーテの思想に学び、近代科学に対する批判的な目を養いたい。この書は主にゲーテの『色彩論』を対象にしていますが、ゲーテの他のさまざまな作品を読むきっかけにもなればと思います。</p> <p>テキストは高橋義人編の教科書版を使用しますが、絶版なのでコピーを配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト及び講義内容の紹介 2 テキスト 1～3ページ 3 3～5ページ 4 5～7ページ 5 7～8ページ 6 9～10ページ 7 11～12ページ 8 13～14ページ 9 15～16ページ 10 17～18ページ 11 18～19ページ 12 前期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Walter Heitler: <i>Goethe contra Newton</i> 参考文献は授業中に紹介する。</p>		授業に出席して発言し、レポートを提出すること。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	桜井 より子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語のテキストを読み、読解力と思考力を養い、レポート(日本語)を書いて発表出来るようにする。</p> <p>今日、私たちの日常生活においても、環境汚染をはじめ、食品や医療、住居の安全性などの問題を把握し、自ら生活や生命を守ろうとするとき、かなりの科学的な知識が必要となってきています。その場合の科学的知識は単なる客観的、数量的な知識ではなく、人間中心の考え方に裏打ちされたものでなければなりません。</p> <p>この授業では、W. ハイトラー著『ゲーテ対ニュートン』をテキストにして、近代科学の先駆者ニュートンに対抗して独自の自然観を展開したゲーテの思想に学び、近代科学に対する批判的な目を養いたい。この書は主にゲーテの『色彩論』を対象に論じていますが、ゲーテの他のさまざまな作品を読むきっかけにもなればと思います。</p> <p>テキストは高橋義人編の教科書版を使用しますが、絶版なのでコピーを配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 レポートの発表、ディスカッション 2 テキスト 20～21ページ 3 22～23ページ 4 23～24ページ 5 25～26ページ 6 ビデオ観賞 7 27～28ページ 8 29～30ページ 9 31～32ページ 10 33～34ページ 11 35～36ページ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Walter Heitler: <i>Goethe contra Nerton</i> 参考文献は授業中に紹介する。</p>		授業に出席して発言し、レポートを提出すること。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：今秋には、本学の創設者天野貞祐氏が生涯をかけて研究された、ドイツ観念論の偉大な哲学者I・カントの「恒久平和について」についてのシンポジウムが、本学とゲーテ・インスティトゥートとの共催で行われる予定である。本講義の受講者に参加者として質問と意見を発表してもらいたいと考えている。</p> <p>概要：いわゆるヒゲ文字で印刷されている難解な文献であるが、翻訳もあるので、各自に自分のコトバに直して、じっくり内容を吟味しつつ、読み解き、討論に参加してもらいたい。</p>		<p>全部で40ページあまりなので、1回につき2ページずつ読み進むようにしたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Zum ewigen Frieden. Ein philosophischer Entwurf von Immanuel Kant. Aus: Kants Werke. Akademie Textausgabe. Bd. VIII. (コピー配布)</p>		<p>訳とレポートの実績に基づく自己評価を基本にして、最終評価をする。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	同上	担当者	同上
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>同上</p> <p>ただし、11月にシンポジウムがあるので、それへの参加も授業に含める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「人間を戦争という宿命から救い出す道があるのかどうか」、「少数の人間が、新聞や学校や宗教団体などを手中に収めて、多数者を狂乱や献身の状態にまで熱狂させることができるのはどうしてでしょうか？」この物理学者アインシュタインの1932年6月30日付け書簡による問いかけに対して、心理学者フロイトが同年9月に出した返書を読む。二人のユダヤ啓蒙知識人の往復書簡の間に、ドイツでは7月30日に総選挙があり、ナチ党が大躍進して608議席中230議席を獲得して初めて第一党になった。</p> <p>「人間の精神を発達させて、憎悪や殺戮のような精神の病に対する抵抗力を持たせることはできないのでしょうか?」。今、この問いに諸君ならばどのように答えるか。フロイトとともに考えてみよう。ちなみに、彼はすでに1920年発表の論文「快楽原則の彼岸」において、無意識の領域には、性的欲動だけでなく、死の欲動もあるという見解を明らかにしていた。</p>		<p>第4学期までに習得したドイツ文法に知識を確認しながら、毎回テキストを2,3ページずつ丁寧に読んでゆく。聴講者が独検3級合格者程度以上のドイツ語読解力を持っていることを想定している。それでも初めのうちは1ページに10個以上の未知の単語があるようだ。また知っている単語でも確かではないものも同じくらいあるから、予習には根気が必要である。したがってテーマ(戦争、フロイトの無意識理論、文化 pessimism など)に興味をもてないと学習はかなりの困難が予想される。2004年度春学期の講義「ドイツの思想 a」の履修は、予備知識として有効である。また参考書にあらかじめ目を通しておくことも学習を助ける。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:フロイト著(生松敬三編)『戦争と無常』、同学社。 参考文献:『アインシュタイン平和書簡』I、みすず書房。 フロイト選集第8巻『幻想の未来』、日本教文社。</p>		出席、テキスト朗読と訳読、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に准ずる。		春学期に准ずる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に准ずる。		春学期に准ずる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① ドイツ語講読(思想 II)では、フリードリッヒ・シュライエルマッハーの『解釈学と批評』(Hermeneutik und Kritik)を素読します。これ自体、円熟期の作品なので読みやすいはず。そもそも、誤解や思い違いに意味があるのか、どうして「誤りは生産的である」(Irrtum ist produktiv)のか、一緒に考えましょう。</p> <p>② ドイツ語講読(思想 I)の学生のために、ハイデルベルク大学教授のテオ・ズンダーマイアーの『外国人を理解するー実践的解釈学』(Theo Sundermeier: "Den Fremden verstehen -Eine praktische Hermeneutik")を講読する予定です。著者は、実践的例証をふんだんに用いて、相互の自己理解の間に生じるコンフリクト(=葛藤・トラブル)を解決しようと試みています。①が解釈理論であれば、②はその実践編です。なにやら難しそうで、自分には関係ないと思わず、一度参加してみてください。必ず、その魅力に気づかれるでしょう。年間を通じて、自分には疎遠(fremd)と思われるもの・外国人の理解を深めることにより、人と違うところこそが自分であることを学びつつ、正しく自分を理解し把握する解釈技術を、理論と実践の両面から究明します。</p> <p>③ 「自分」には無関心で、むしろ社会的関心(Emanzipation)が強いという人のために、フォイエルバッハの『キリスト教の本質』(Ludwig Feuerbach: "Das Wesen des Christentums")のコース内講読をお勧めします。毎日が「目から鱗」の驚きで、読み始めたらずめられないようになるでしょう。</p> <p>以上のように、この外書講読では受講者の関心に沿って柔軟に読み分けていく予定です。</p>		<p>ドイツ語講読(思想 I)の場合、ズンダーマイアーの『外国人を理解するー実践的解釈学』(Theo Sundermeier: "Den Fremden verstehen -Eine praktische Hermeneutik")の理論編を講読します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Dem Fremden begegnen - Ethnologische Perspektiven 2. Den Fremden sehen - Kunstgeschichtliche Perspektiven 3. Den Fremden denken - Philosophische Perspektiven 4. Mit dem Fremden sprechen - Kommunikationstheoretische Perspektiven 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①Friedrich Schleiermacher, "Hermeneutik und Kritik (Suhrkamp)②Theo Sundermeier: "Den Fremden verstehen -Eine praktische Hermeneutik (Vandenhoeck & Ruprecht) 春学期・秋学期とも、本書がメインです。③Ludwig Feuerbach, "Das Wesen des Christentums " ④宮村重徳『ペルソーナ・働き・存在』(三恵社、2004)、これは参考文献。</p>		<p>出席とレポート、及び筆記試験。3年次の学生には必須、卒業年度の学生は自己申告による評価を採用。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(思想) ドイツ語講読(思想) I・II	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>ドイツ語講読(思想 I)の場合、テオ・ズンダーマイアーの『外国人を理解するー実践的解釈学』(Theo Sundermeier: "Den Fremden verstehen -Eine praktische Hermeneutik")の実践編を講読します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 Den Fremden einordnen -Religionsgeschichtliche Perspektiven 6 Den Fremden verstehen - Hermeneutische Stufen 7. Den Fremden einladen - Theologische Perspektiven 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>美術館を訪れると、作品の横には必ず、作品の基本データを短く記述した解説が見られます。作家名、制作年代、技法の他、作品の主題が解説されています。この講義では、ドイツの美術館の作品に見られるこうした解説を教材としながら、読解力の向上を図るとともに、美術作品に関する理解を深めることを目的とします。</p> <p>注意事項： 毎回扱う作品について、各自に予習を課します。</p>		<p>毎回、一つの作品に関する短い解説を読み終えることを目標とします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な部分を毎回プリントで配布します。		筆記試験および平常点(出席と予習)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、ドイツの美術館カタログの中から作品を選び出し、その解説を読みこなす練習をします。秋学期は、特に美術の専門用語も学ぶ努力をします。</p> <p>注意事項： 春学期と同様に、毎回予習を課します。</p>		<p>毎回一つの作品をテーマに扱います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な部分を毎回プリントで配布します。		筆記試験および平常点(出席と予習)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	木村佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただければと思います。訳すにあたっては、日本語として通りやすい文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>今年度は、主に J. S. バッハの生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。バッハが暮らした都市についての文章、作品論、声楽作品の歌詞、バッハ自身が書いた書状などをとりあげる予定です。現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もありますので、予め了解しておいてください。</p> <p>なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。</p> <p>注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないということがないように、充分準備して臨んでください。また、ドイツ語の書籍から注釈(ヒント)等のない生の文章をとりだしてきますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。</p>		<p>各回2ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは授業中に配布します。</p> <p>参考文献は、加藤浩子著『バッハへの旅』(東京書籍、2000年)ほか。</p>		<p>筆記試験および平常点(出席、予習等)</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	木村佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただければと思います。訳すにあたっては、日本語として通りやすい文章にすることをみなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>今年度は、主に J. S. バッハの生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。バッハが暮らした都市についての文章、作品論、声楽作品の歌詞、バッハ自身が書いた書状などをとりあげる予定です。現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もありますので、予め了解しておいてください。</p> <p>なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。</p> <p>注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないということがないように、充分準備して臨んでください。また、ドイツ語の書籍から注釈(ヒント)などのない生の文章をとりだしてきますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。内容的には、春学期の続きとなりますので、通年で履修する方が理解しやすいと思います。</p>		<p>各回2ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは授業中に配布します。</p> <p>参考文献は、加藤浩子著『バッハへの旅』(東京書籍、2000年)ほか。</p>		<p>筆記試験および平常点(出席、予習等)</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ニーチェ(1844-1900)の処女作『悲劇の誕生』(Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik1872)のなかからいくつかの章を精選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体(Periode)に慣れるのと同時に、実人生にとっての芸術の意義について考察して行きたい。</p> <p>前年度からの続きですが、読む章は全く異なりますし、同書全体を視野に入れて説明して行きますので、文法の基礎的な知識と人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス及びニーチェの略伝紹介。 2. 以下は『悲劇の誕生』の原典講読につき、略す。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況と平素の学習態度(特に予習の有無)を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100点満点中10点を出席点とする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ニーチェ(1844-1900)の処女作『悲劇の誕生』(Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik1872)のなかからいくつかの章を精選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体(Periode)に慣れるのと同時に、実人生にとっての芸術の意義について考察して行きたい。</p> <p>前年度からの続きですが、読む章は全く異なりますし、同書全体を視野に入れて説明して行きますので、文法の基礎的な知識と人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 以下は『悲劇の誕生』の原典講読につき、略す。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況と平素の学習態度(特に予習の有無)を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100点満点中10点を出席点とする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
Emmerich Kálmán (1882-1953)の「チャールダーシュの女王」及び Franz Lehár (1870-1948)の「微笑みの国」の両オペレッタを、理解を深めるために映像及び音楽の鑑賞をしつつ、それらのリブレット(台本)の一部や作品解説等を講読する。		1 チャールダーシュの女王(1) 2 チャールダーシュの女王(2) 3 チャールダーシュの女王(3) 4 チャールダーシュの女王(4) 5 チャールダーシュの女王(5) 6 チャールダーシュの女王(6) 7 微笑の国(1) 8 微笑の国(2) 9 微笑の国(3) 10 微笑の国(4) 11 微笑の国(5) 12 微笑の国(6)	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は適時プリントにて配布。 参考文献は授業時に紹介の予定。		出席、レポート、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(芸術) ドイツ語講読(芸術) I・II	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏で公演された Andrew Lloyd Webber (1948-)の「オペラ座の怪人」及び Sylvester Levay(1945-)の「モーツアルト」の両ミュージカルを、理解を深めるために映像及び音楽の鑑賞をしつつ、それらのリブレット(台本)の一部や作品解説等を講読する。		1 オペラ座の怪人(1) 2 オペラ座の怪人(2) 3 オペラ座の怪人(3) 4 オペラ座の怪人(4) 5 オペラ座の怪人(5) 6 オペラ座の怪人(6) 7 モーツアルト(1) 8 モーツアルト(2) 9 モーツアルト(3) 10 モーツアルト(4) 11 モーツアルト(5) 12 モーツアルト(6)	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は適時プリントにて配布。 参考文献は授業時に紹介の予定。		出席、レポート、試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ史概論 a ドイツ史概論	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標：これからドイツ語圏の社会・歴史を学ぶために必要な基礎知識を習得する入門コースです。ドイツ語圏の歴史に関する重要事項を各時間ごとにまとめてお話ししたいと思います。なお、ドイツ語学科の授業ですから、各歴史事項についてのドイツ語表記もついでに学習してください。</p> <p>講義概要：春学期は、中世から第一次世界大戦に至るまでのドイツ語圏の歴史の中で重要と思われる事項をピックアップして概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関する説明/歴史を学ぶことの意味/レポートの書き方に関する注意など 2. 神聖ローマ帝国 3. 宗教改革と農民戦争 4. 30年戦争 5. 啓蒙絶対君主と近代化 6. 国民国家とナショナリズム 7. 自由と統一 8. 工業化と社会問題 9. 反ユダヤ主義と反セム主義 10. 第一次世界大戦 (ビデオ) 11. ドイツ帝国と第一次世界大戦の開戦 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布		ただ単に講義を聴いているだけの授業は避けたいので、受講生には授業中に簡単な課題に答えてもらいます。評価は課題レポートの予定です。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ史概論 b ドイツ史概論	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標：ドイツ史概論 a と同じ。</p> <p>講義概要：秋学期は、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけてのドイツの歴史を材料に、歴史の「事実」をどう認識するかということの重要性を検討していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一次世界大戦とドイツ帝国 2. ドイツ革命とヴァイマル共和国の成立 3. ヴェルサイユ条約と戦争責任問題 4. 共和国の敵 5. ヴァイマル共和国の崩壊とヒトラー政権の誕生 6. 国民社会主義ドイツ労働者(ナチ)党の発展 7. ユダヤ人問題/否定論者の系譜 8. 受容と抵抗：抵抗運動 9. 受容と抵抗：「普通の人々」 /アイヒマン(ビデオ) 10. 戦後ドイツの歴史認識：日独比較 11. 戦後ドイツの歴史認識：ドイツの歴史教育 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ドイツ史概論 a と同じ。		ドイツ史概論 a と同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの歴史 a ドイツの歴史	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏におけるユダヤの歴史		ドイツ語圏へのユダヤ教徒の進出 十字軍のドイツのユダヤ教徒 ペストの流行とユダヤ教徒の迫害 ドイツ諸都市からのユダヤ教徒の迫害 ゲットーの成立 「東方ユダヤ」の成立 宗教改革とユダヤ教徒 「宮廷ユダヤ」の成立 啓蒙主義とユダヤ教徒 法的解放の完成	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中の紹介		小レポート、レポート	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの歴史 b ドイツの歴史	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
		人種主義と反セム主義 社会主義とユダヤ ヒトラーの反ユダヤ主義 ナチズムの時代のユダヤ政策 ホロコースト 戦後における補償の問題 現在のユダヤ問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中の紹介		小レポート、レポート	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	ドイツの社会・事情 a ドイツの社会・事情	担当者	H.H. Gätke
講義目的、講義概要		授業計画	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorbesprechung: Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial 2. Begriffsklärung: Staat – Volk – Nation 3. – “ - : Bündnis – Staatenbund 4. – “ - : Bundesstaat – Zentralstaat 5. Staatssymbole: Flagge – Wappen – Hymne 6. Verfassung (Grundgesetz) 7. Staatliche Grundprinzipien 8. Republik – parlamentarische Demokratie 9. Rechtsstaat – Sozialstaat 10. Föderalismus 11. Deutsche Einheitsbestrebungen (historischer Abriß) 12. Zusammenfassung, Fragestunde 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird zum Semesterbeginn verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	ドイツの社会・事情 b ドイツの社会・事情	担当者	H.H. Gätke
講義目的、講義概要		授業計画	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung der Testergebnisse, Vorbesprechung (Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial) 2. Staatsorgane I: Staatsgewalt Legislative (Bundestag) 3. Staatsorgane II: Staatsgewalt Exekutive (Regierung) 4. Staatsorgane III: Staatsgewalt Judikative (Gerichte) 5. Gewaltenteilung horizontal – vertikal 6. Gesetzgebungskompetenzen des Bundes und der Länder 7. Staatsorgane IV: Bundespräsident – Bundesrat 8. Wahlsystem I 9. Wahlsystem II 10. Parteiensystem 11. Europa - BRD – Bundesländer (geografisch) 12. Zusammenfassung, Fragestunde 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird zum Semesterbeginn verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの地誌・民俗 a ドイツの地誌・民俗	担当者	大串 紀代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語文化圏における文化地理的条件や、一般民衆のなかで伝承されてきたさまざまな習俗や慣習を学ぶことによって、幅広い文化理解を深める。</p> <p>さらに、同時進行的に日本における地誌・民俗との比較分析も行い、比較文化的分世紀も行う。</p> <p>参加者は、レポートの提出とプレゼンテーションを必ず行うこと。各学期4回以上の欠席者には、単位を与えない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス)の地理的条件と日本との比較 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 都市の成立と発達：北部 6. 都市の成立と発達：中央部 7. 都市の成立と発達：南部 8. 都市の成立と発達：南部 9. 都市と農村 10. 農村の発達と産業 11. 季節の民俗行事：5月 12. 季節の民俗行事：6月 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントを配布。OHPによる説明		出席、レポート、発表の3点を総合的に判断する	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの地誌・民俗 b ドイツの地誌・民俗	担当者	大串 紀代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、主としてドイツ語圏と日本との民俗行事や習俗・慣習を取り扱う。</p> <p>参加者は、それぞれのテーマでレポート提出およびプレゼンテーションを行うこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 季節の民俗行事：7月 2. 季節の民俗行事：8月 3. 季節の民族い行事：9月 4. 季節の民俗行事：10月 5. 季節の民俗行事：11月 6. 季節の民俗行事：12月 7. 季節の民俗行事：12夜について 8. 季節の民俗行事：1月 9. 季節の民俗行事：2月 10. 季節の民俗行事：3月 11. 季節の民俗行事：4月 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントを配布。		出席、レポート、発表の3点を総合的に判断する。 1学期に4回以上の欠席者には単位を与えない。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの政治・対外関係 a ドイツの政治・対外関係	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の講義では、ドイツ語圏諸国の「政治・選挙・行政システム」、「代表的諸政党」の特質を比較検討します。「政治・対外関係」と言うとはやや堅いイメージをもつかもしませんが、この授業では補助教材やビデオ資料を駆使して、わかりやすい講義の実現につとめます。		1 年間計画、講義目標、評価方法等の説明 2 ドイツ連邦共和国の政治・選挙システム 3 オーストリア、スイスの政治・選挙システム 4、5 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状(1) 社会民主主義政党 6、7 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状(2) 保守政党 8、9 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状(3) 緑の党と自由民主党 10、11 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状(4) 極右政党とネオナチ 12 前期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として講義レジュメ(プリント)を配布します。		学年末に筆記試験を実施します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの政治・対外関係 b ドイツの政治・対外関係	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、ドイツ、オーストリアの戦後政治の流れを、「国際関係」という枠組みのなかで考察していきます。テーマによっては日本の事例との比較を行う予定ですので、参加者は日頃から新聞を読む習慣をつけておくようにして下さい。		1 ドイツの敗戦と戦後政党活動の開始 2 戦後変革の諸相(非ナチ化、土地改革) 3 連合軍占領の比較研究 4 西ドイツの成立と NATO 5 永世中立国オーストリアの誕生 6 ドイツ、オーストリアの戦後補償 7 「ベルリンの壁」建設と東ドイツ 8 ブラント政権の誕生と東方外交 9 ドイツ統一とコール政権 10 1998年選挙とシュレーダー政権の誕生 11 欧州連合とドイツ、オーストリア 12 後期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として講義レジュメ(プリント)を配布します。		学年末に筆記試験を実施します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの経済 a ドイツの経済	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日のドイツ経済・社会システムは「社会的市場経済」と特徴付けられており、アメリカやイギリスなどのアングロサクソンの市場経済のあり方とは異なる、高度に制度化された市場経済のあり方を示している。こうしたドイツ固有のあり方を理解することが第一の目標である。経済のグローバル化と EU 統合によってドイツの伝統的な制度的特徴は変化しつつある。現代ドイツの経済・社会システムがかかえる問題の検討を通じてドイツの将来展望について考察すること、これが第二の目標である。</p> <p>具体的には、テーマごとに日本のあり方を念頭に置きながらドイツのあり方の特徴を考えていきたい。今年度は、「働く」ということを中心テーマとして設定し、これに関わる問題を扱っていきたい。</p> <p>春学期には身近な領域から出発する。学校教育・職業教育のあり方、就職、仕事と家庭との関係などをテーマとして取り上げる。</p> <p>なお授業を進める中で、テーマ選択に多少の変更もありうる。</p> <p>聴講者には随時、小レポートを課す。また講義の後半には、グループごとに調べて発表をしてもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 学校教育 3. 職業教育 4. 就職 5. 仕事と家庭 6. 少子化問題、男女共同参画について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない Aktuell 2005 (Lexikon) Harenberg (2004) 参考文献		授業での取り組み、課題レポート、期末テストの総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの経済 b ドイツの経済	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>全体の目的および概要については上記参照。</p> <p>秋学期には、失業問題とその対策、少子化問題、男女共同参画のあり方、などについて日独比較を行いながら考えていきたい。</p> <p>なお授業を進める中で、テーマ選択に多少の変更もありうる。</p> <p>聴講者には随時、小レポートを課す。また講義の後半には、グループごとに調べて発表をしてもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 失業問題 (労働市場政策) 3. 少子化問題 (社会保障政策) 4. 男女共同参画のあり方 (同上) 5. まとめ：日本とドイツの比較 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Aktuell 2005 (Lexikon) Harenberg (2004) 福島清彦『ヨーロッパ型資本主義』講談社、2003年。 戸原・加藤・工藤編著『ドイツ経済』有斐閣、2003年。		授業での取り組み、課題レポート、期末テストの総合評価	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツの法律 a ドイツの法律	担当者	滝沢 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>明治維新政府は、ヨーロッパ大陸諸国(とりわけ、ドイツ及びフランス)の法制度を輸入し、近代化を遂げてきました。しかし、第二次世界大戦後は、英米法、とりわけ、アメリカ法の影響を強く受けながらも、わが国の法制度の基本概念、規定等は、一部の法領域の例外はあるものの、依然として、大陸法(とりわけ、ドイツ法)の影響を強く受けています。</p> <p>ところで、わが国の法制度の基礎となった外国の法制度を眺めることは、わが国の法解釈・理解、さらには、わが国の法制度において解決できない問題を解決する指針を提供することもあります。外国法を学ぶ必要性が見出せるものと思われまます。</p> <p>他方で、法制度は、社会から浮遊したものではなく、社会のあり方と密接に結びついておりますので、ドイツの法制度の理解は、ドイツ社会・文化の理解につながることもあるかと思われまます。</p> <p>そこで、本講義では、わが国・ドイツの法制度、社会及び文化理解の一助のために、日本の法制度を概観しながら、ドイツの法制度及び社会・文化の特徴を模索したいと思います。なお、ドイツ留学を希望する学生には、一定の情報を提供したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本法とドイツ法 比較法の意義・限界 2. ドイツ連邦共和国とは 3. 基本法 連邦制度 4. 基本法 法治国家 5. 基本法 基本権 6. 民法、商法 7. 刑法 8. 司法制度 9. 民事訴訟法 10. 刑事訴訟法 11. 行政法、労働法 12. ドイツの教育制度・大学制度・法学教育 	
テキスト、参考文献		評価方法	
村上淳一・マルチュケ・ハンス・ペーター『ドイツ法入門』改訂第5版(2002年、有斐閣)		学期末に実施する択一式試験のみとします。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツの法律 b ドイツの法律	担当者	滝沢 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>比較法の意義の一つには、わが国の法解釈で解決できない問題があるときに、それを解決できる外国の解釈及び法制度を検討し、わが国の法解釈及び立法に指針を与えることにあります。特に、わが国と比べると、ドイツにおいては、新しい法律問題が発生したときには、立法府がこまめに法改正を行い、法運用を規律する特徴が見られます。</p> <p>そこで、本講義では、春学期の講義を前提としながら、近年のドイツ法における新しい議論、わが国及びドイツに共通する新しい法律問題及び学会での議論のいくつかを選び出し、検討することで、わが国及びドイツの法制度、社会及び文化の特徴を模索してみたいと思います。なお、ドイツ留学を希望する学生には、一定の情報を提供したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ法のヨーロッパ化 (Europäisierung) 2. ヨーロッパ人権保障条約 (EMRK) 3. 法曹育成改革 4. 違憲立法審査と Juniorprofessor 5. カント没後 200年 (2003) と刑法 6. 医事刑法 (Medizinrecht) 7. 触法精神障害者の処遇 8. 改善保安処分の導入の可能性 9. 国民の司法参加 (Schöffengericht) 10. 犯罪被害者の訴訟参加 (Nebenklage) 11. 付帯私訴 (Adhäsionsverfahren) 12. 性犯罪者の出所情報の通知 	
テキスト、参考文献		評価方法	
村上淳一・マルチュケ・ハンス・ペーター『ドイツ法入門』改訂第5版(2002年、有斐閣)		学期末に実施する択一式試験のみとします。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(歴史) ドイツ語講読(歴史) I・II	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>過去のドイツにも、今日のトルコ系の人々にあたる多数の民族的少数派を抱え込んでいた時代があった。第二帝政期(1871-1918)のポーランド人である。この人々は、18世紀末、プロイセン、オーストリア、ロシアによって祖国ポーランドが分割された結果、プロイセン国籍を取得し、やがてプロイセンがドイツを統一した結果、ドイツ国籍を取得した。いわば自動的にドイツ国籍をもっているという点で、今日のトルコ人とは異なるが、政治的・社会的な差別を受けながら、自らの権利を拡大するためにさまざまな組織を設立し、運動を展開した点は共通である。</p> <p>ドイツのポーランド人について知ることはドイツの知られざる過去の歴史の一面を知るにとどまらず、もし、ある社会の移民や外国人に対する態度が長い時の経過を経て容易に変わらないものであるとするならば、今日のトルコ人の境遇と運命を知るための参考にもなるに違いない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 2. テキストを読む 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. 結論とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤定良『異郷と故郷』(東大出版会、1987) 伊藤定良『ドイツの長い19世紀』(青木書店、2002)		学期末試験の成績による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(歴史) ドイツ語講読(歴史) I・II	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2004年7月、ドイツ連邦共和国では懸案の移民法が成立した。この法律は2005年1月1日から施行され、移民にドイツ語を中心とする「統合コース」への出席を義務づけると同時に、予防拘禁を含むテロ容疑者の国外追放を容易にする手段を法的に保障するという側面を合わせもっている。</p> <p>EU圏内にヒトとモノとサービスの自由な移動を保障したシェンゲン条約(1990)も、難民の流入や麻薬の持ち込みを阻止するというもう一つの側面をもっていた。今回の移民法もこの延長線上にあるものと位置づけられる。</p> <p>ドイツの過去の経験に踏まえて基本法に庇護権を書き込んだドイツ国家は、東ドイツはじめ東欧の社会主義体制の崩壊後の1993年、亡命者や難民の重みに耐え切れず、ついに第16条の修正を行った。フランスと並んで人権大国といわれるドイツは移民や外国人の人権をどのように考え、どこに進もうとしているのだろうか。移民法を手がかりにこの問題に対する答えを探りたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 2. テキストを読む 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. 結論とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
内藤正典『アッラーのヨーロッパ』(東大出版会、1996) 内藤正典『ヨーロッパとイスラーム』(岩波新書、2004)		学期末試験の成績による	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(歴史) ドイツ語講読(歴史) I・II	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの代表的週刊誌『シュピーゲル』や各種新聞のなかから、受講生の関心に応じて、ドイツやヨーロッパ現代史に関連するテーマを抜粋して読んでいきます。具体的な教材は、初回に受講生の意見をまじえて複数の候補から選択・決定しますが、さしあたり本年度は、ベルリンやウィーンの“警鐘碑”論争を通じて近年注目されている“戦争・迫害の記憶”に関連する論文を読む予定です。必要に応じて、対象テーマについての予備講義や受講生による小発表なども随時実施しながらわかりやすい授業につとめます。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配付します。		学期末に実施するテスト、出席状況、授業への貢献度から総合的に評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(歴史) ドイツ語講読(歴史) I・II	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、現代ドイツにおける“戦争・迫害の記憶”をこの授業の主要テーマに設定します。</p> <p>さしあたり秋学期は、今年「解放60周年」を迎えたアウシュヴィッツ強制収容所の歴史とその現代的意味を記した次の概説書を、適宜解説を加えながら読んでいくことにします。</p> <p>Sybille Steinbacher, <i>Auschwitz. Geschichte und Nachgeschichte</i>, Nördlingen, 2004.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配付します。		学期末に実施するテスト、出席状況、授業への貢献度から総合的に評価します。	

03年度以降(春)	ドイツ語講読(歴史)	担当者	増谷 英樹
02年度以前(春)	ドイツ語講読(歴史) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの歴史に関連するドイツ語を読むことにより、ドイツ語を読む能力を開発するとともに、ドイツ語圏の歴史についての知識を獲得する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布		出席、発表、レポートなど	

03年度以降(秋)	ドイツ語講読(歴史)	担当者	増谷 英樹
02年度以前(秋)	ドイツ語講読(歴史) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
同上			
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春)	ドイツ語講読(社会)	担当者	飯沼 隆一
02年度以前(春)	ドイツ語講読(社会) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の社会を扱った文章といってもそのテーマは広範なものになる。この時間は比較文化論的な視点からさまざまな社会現象を読み解けたらと思います。一つ一つの社会的な出来事を示すにとどまらず、それがどのような歴史的・思想的背景から出てきたのかを見る試みです。</p> <p>比較文化論といっても私たち日本人の考えからすると特異に感じられる点、国際化社会におけるコミュニケーション・ギャップなどから出発しています。</p>		<p>まずテキスト①(プリント)を1回に1課分くらいの予定で読み進め、テーマが煮詰まってきた段階で参考文献の③④に基づいた説明はをさんでいきたいと思っています。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①『黒は白』 ミツヒェル・新保 (郁文堂)</p> <p>②『ドイツ人の見た日本人』 小塩 (朝日出版社)</p>		定期試験、平常評価で決めます。	

03年度以降(秋)	ドイツ語講読(社会)	担当者	飯沼 隆一
02年度以前(秋)	ドイツ語講読(社会) I・II		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期で見た表面的な文化の違いにとどまらず、ドイツ(西洋)とわれわれの根本的な違いを、④に基づいてキリスト教と「個人」の成立との関係、日本の「世間」とは?といった点から解説を加えながらテキストを読む参考に使いたい。</p>		<p>前期内容を引き続けるのと並んで、ドイツ語圏のアクチュアルな新聞・雑誌の記事などから読めるものを取り入れていきたいと思っています。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>③『かくれた次元』 エドワード・ホール</p> <p>④『ヨーロッパを見る視角』 阿部謹也</p>		定期試験、平常評価と内容に関する短いレポート一本程度を考えています。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(社会) ドイツ語講読(社会) I・II	担当者	大串 紀代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標： この講義には、参加学生にとっては2つの目標がある。 第1は、現代社会における諸問題に関心を持ち、理解を深めること。 第2は、ドイツ語文の読解力を高めることである。 第1点に関しては、政治、経済、環境、年金、失業などドイツ語圏での諸問題は、日本でも看過できない重要課題なので、日本での情報と比較しながら、問題に対する理解を深め、広い視野を持つように努める。 第2点に関しては、文法的理解、語彙や表現の習得、事件の背景と内容の理解に努める。さらに、正確な日本語訳も必須条件になる。 さらに、大学HPに発表することにより、学外一般に対して、『大学からの情報発信』としての機能も持つ。</p> <p>参加の条件：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自主的予習と発表。 2. 各自「添削済み訳文」をHP上にアップ。 <p>従って、広い社会的関心が少ない人、ドイツ語読解力が劣る人、日本語文がきちんと書けない人、パソコン能力がない人には、向きません。</p>		<p>授業内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットを利用し、ドイツから日々送られてくるニュースを読む。(サイトと期日を毎回指定する)必ず予習してくる。 2. 内容と政治的・経済的・社会的・歴史的背景を知る。 3. 正確な日本語訳を試み、自主的に発表する。 4. 添削を受けるために、「訳文」をメールで送る。 5. 「添削済み訳文」を各自大学HP上にアップする。 <p>備考：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「大学からの情報発信」という機能を持っているので、仕事は、学期中だけではなく、休暇中にも続行する。 2. 現在も「ドイツの最新ニュース」としてHP掲載が続行しています。参加希望者は、必ず目を通してください。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
インターネットからとった最新ニュースを読む。 サイトと期日は毎回指定する。		授業中の発表とHPへのアップをワンセットで評価する。 特別な理由がある場合を除いて、欠席は1学期あたり3回までしか認めない。欠席が多い場合は単位を出さない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(社会) ドイツ語講読(社会) I・II	担当者	大串 紀代子
講義目的、講義概要		授業計画	
上記と同じ。		上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記と同じ。		上記と同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(社会) ドイツ語講読(社会) I・II	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 国際社会についてドイツ語で書かれた新聞、雑誌、インターネットなどの記事を独力で読めるようにする。</p> <p>講義概要： 現代のドイツ語圏社会、国際状況、日本社会を扱う記事の中からわかりやすい、新鮮な記事を探して、一緒に読む。</p>		<p>記事をどんどん読んでいく。 事情や背景を説明する。 予習してくる事。 学期の授業回数の3分の2以上出席すること。続けて3回休まないこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『時事ドイツ語<`04年トピックス』A.Raab、石井共著、朝日出版社刊</p>		<p>平常の授業での態度、小テスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して総合的に評価する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(社会) ドイツ語講読(社会) I・II	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 国際社会についてドイツ語で書かれた新聞、雑誌、インターネットなどの記事を独力で読めるようにする。</p> <p>講義概要： 現代のドイツ語圏社会、国際状況、日本社会を扱う記事の中からわかりやすい、新鮮な記事を探して、一緒に読む。</p>		<p>記事をどんどん読んでいく。 事情や背景を説明する。 予習してくる事。 学期の授業回数の3分の2以上出席すること。続けて3回休まないこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピーを配る。</p>		<p>平常の授業での態度、小テスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して総合的に評価する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語講読(社会) ドイツ語講読(社会) I・II	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは、これまでに、語学的にも、社会事情についても、多くの事柄を学んできたでしょうが、この学期はもう一度、基本を見つめ直すことにします。それが、かえってドイツ語の運用能力の向上に資すると考えるからです。</p> <p>昨年ドイツで起きた出来事から10のトピックスを読みます。</p>		<p>テーマは、スポーツ、政治、文化、社会、経済の5分野。それぞれ、2つのトピックスからなります。</p> <p>それぞれに、次の観点から進めて行きます。 1) 大意を把握する。2) 文法的要点を確認する。3) 直訳ではなく、意識を試みる。4) 社会背景を理解する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト:『時事ドイツ語<'04年トピックス>』(朝日出版社)		授業への参加貢献度と定期試験で総合評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語講読(社会) ドイツ語講読(社会) I・II	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマは、春学期のトピックスとの関連で、「連邦共和国における移民問題」とします。ドイツで発行された雑誌を読み、ドイツ語のさらなる運用能力の向上を図ります。必要に応じて、インターネット上の関連記事を用います。</p>		<p>春学期の進度によりますが、場合によっては残るトピックスを読み終えます。</p> <p>「移民問題」では、まず統計的文章を読み、歴史的背景に迫ります。ついで多言語、多文化社会が内包する諸相を扱います。特にトルコ系の第3世代と呼ばれる若者たちの生活感覚を中心に置きます。学期の終わりには、日本の外国人労働者政策を視野に収める予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。</p> <p>参考文献: 内藤正典『ヨーロッパとイスラーム』(岩波新書) 増谷英樹/ 伊藤定良『越境する文化と国民統合』(東京大学出版会)</p>		授業への参加貢献度と定期試験で総合評価します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	卒論指導	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>4年間の勉強の総仕上げとしての卒論をより充実させ、形式面でも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。</p> <p>1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実際に学ぶ。</p> <p>2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもちろん重要であるが、主査および「卒論指導」担当教員、また参加学生同士の対話も不可欠の要素である。分野を越えた対話を通してお互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。</p> <p>3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査能力・プレゼンテーション能力等の、大学レベルでの仕上げを目指す。</p>		<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 卒論の基本的なリテラシー</p> <p>第3回 卒論題目提出のための準備</p> <p>第4回 論文題目提出のための準備</p> <p>第5回 基本的な文献目録の1次作成</p> <p>第6回 卒論を書くためのストラテジー1</p> <p>第7回 卒論を書くためのストラテジー2</p> <p>第8回 卒論を書くためのストラテジー3</p> <p>第9回 卒論を書くためのストラテジー4</p> <p>中間報告</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、春学期末の中間報告、提出後の口頭試問の結果が考慮される。卒論が提出されない場合にはF評価とする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	卒論指導	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>4年間の勉強の総仕上げとしての卒論をより充実させ、形式面でも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。</p> <p>1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実際に学ぶ。</p> <p>2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもちろん重要であるが、主査および「卒論指導」担当教員、また参加学生同士の対話も不可欠の要素である。分野を越えた対話を通してお互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。</p> <p>3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査能力・プレゼンテーション能力等の、大学レベルでの仕上げを目指す。</p>		<p>第1回 夏休みの成果報告</p> <p>第2回 卒論の基本的なリテラシー</p> <p>第3回 論文の日本語</p> <p>第4回 論文の日本語</p> <p>第5回 要約のためのドイツ語</p> <p>第6回 要約のためのドイツ語</p> <p>第7回 要約のためのドイツ語</p> <p>第8回 要約のためのドイツ語</p> <p>第9回 要約のためのドイツ語</p> <p>口頭試問</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、春学期末の中間報告、提出後の口頭試問の結果が考慮される。卒論が提出されない場合にはF評価とする。	

02年度以前(春)	英語(基礎会話Ⅲ)	担当者	J. Stephenson
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on conversation and basic presentation skills.</p> <p>In class, you will have opportunities to speak about a variety of topics. You will learn also learn ways to improve your speaking skills. You do not need to be perfect, but it is important to try to communicate, and to use English as much as you can.</p> <p>You are expected to attend and actively participate in each class, to complete homework assignments and reflect on your learning in a journal. In addition, you will do one presentation and have an interview with the teacher at the end of the term.</p> <p>Please note that attendance is very important, and students who miss 4 or more classes will not be able to pass this class. Fourth year students who must miss classes for job hunting will be asked to do extra work to make up for the work they miss.</p>		<p>Lesson 1 Introduction</p> <p>Lessons 2-6 Units from the textbook Learning about presentations</p> <p>Lessons 7-10 Units from the textbook Student presentations</p> <p>Lessons 11-12 Review Interviews</p> <p>As we will not have enough time to cover all units of the textbook, you will be able to choose the units that you are most interested in. We will talk about this more in the first two lessons of the semester.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced after the first lesson.		30% Participation 20% Journal 10% Homework 20% Presentation 20% Interview	

02年度以前(秋)	英語(基礎会話Ⅲ)	担当者	J. Stephenson
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on conversation and basic presentation skills.</p> <p>In class, you will have opportunities to speak about a variety of topics. You will learn also learn ways to improve your speaking skills. You do not need to be perfect, but it is important to try to communicate, and to use English as much as you can.</p> <p>You are expected to attend and actively participate in each class, to complete homework assignments and reflect on your learning in a journal. In addition, you will do one presentation and have an interview with the teacher at the end of the term.</p> <p>Please note that attendance is very important, and students who miss 4 or more classes will not be able to pass this class. Fourth year students who must miss classes for job hunting will be asked to do extra work to make up for the work they miss.</p>		<p>Lesson 1 Introduction</p> <p>Lessons 2-6 Units from the textbook Learning about presentations</p> <p>Lessons 7-10 Units from the textbook Student presentations</p> <p>Lessons 11-12 Review Interviews</p> <p>As we will not have enough time to cover all units of the textbook, you will be able to choose the units that you are most interested in. We will talk about this more in the first two lessons of the semester.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will use the same textbook as in the first semester.		You will be graded according to: Participation Journal Homework Presentation Interview You will be given more details in the first lesson.	

02年度以前(春)	英語(基礎作文Ⅲ)	担当者	飯島優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このライティングコースは独仏の選択科目です。ある程度の英文法の知識はあるけれど、実際に英語で文章を書くことに自信をつけたい、という学生のためのコースです。</p> <p>このコースでは、最小限必要な英文法の実践力を強化しながら、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるパラグラフライティングの技術を訓練します。また、よい文章を書くために必要不可欠なライティングのプロセスを身につけるため、文章を書く前の計画方法と書いた後の校正方法も学びます。</p> <p>英語のライティング力は、訓練で身につきますので、学生には授業内外で、どんどん書いてもらいます。このコースで訓練する、意味の通る文章を書く技術は、大学のみならず、実社会でのコミュニケーションに大いに役立つはずで</p>		<p>第1回目の授業で詳細を説明しますが、主に次の項目を取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Writing about people 2. Narration 3. Description 4. Paragraph organization 5. More about paragraph organization 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue 著 <i>Introduction to Academic Writing</i> . Longman		出席、授業参加、宿題、テスト、ポートフォリオ	

02年度以前(秋)	英語(基礎作文Ⅲ)	担当者	飯島優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このライティングコースは独仏の選択科目です。</p> <p>このコースでは、春学期に練習したパラグラフライティングを応用して、エッセイの書き方とそのプロセスを学びます。読み手に意見がはっきり伝わるようなエッセイの構成、論理的なアイデアのまとめ方、主張のサポートのしかたなどを、校正を数回繰り返しながら身につけていきます。</p> <p>ライティングは授業外でも時間をとる作業ですが、このコースで1年間訓練を積み、英語のライティング力と論理的な思考力が必ず伸びます。熱意をもって学びに取り組む学生の受講を期待します。</p>		<p>第1回目の授業で詳細を説明しますが、主に次の項目を取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Paragraph organization: review 2. Essay organization 3. Logical division of ideas 4. Supporting an opinion 5. Comparison and contrast 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue 著 <i>Introduction to Academic Writing</i> . Longman Longman		出席、授業参加、宿題、テスト、ポートフォリオ	

02年度以前(通年)	英語(基礎読解Ⅲ)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は旧カリの通年科目です。対象はドイツ語・フランス語学科の3,4年生です。</p> <p>この科目のねらいは、オールラウンドな英語力をつけること。読解となっておりますが、英作文の要素も加え、特に書くことと読むことの力をつけることを目標とします。</p> <p>読むだけでなく、読んだものについて考え、自分の意見を持つ、という姿勢を養っていきたいと考えています。</p> <p>教科書は1冊を指定し、さらに新聞や雑誌の記事をauthenticな補助教材として用います。</p> <p>予習・復習も多く、かなり厳しい授業になるとは思いますが、英語力アップ(特に読む力、書く力)間違いなしです。</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2 Chapter 1</p> <p>3 補助教材</p> <p>4 Chapter 2</p> <p>5 補助教材</p> <p>6 Chapter 3</p> <p>7 補助教材</p> <p>8 Chapter 4</p> <p>9 補助教材</p> <p>10 Chapter 5</p> <p>11 補助教材</p> <p>12 Chapter 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Leading Companies in the 21st Century(松柏社)</p> <p>補助教材は担当者が準備する</p>		<p>通年科目のため、秋学期に評価</p>	

02年度以前(通年)	英語(基礎読解Ⅲ)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春の授業の継続として、読解力、作文力をつけ、大学生にふさわしい英語運用力を身につけてもらうことを目標とします。</p> <p>春と同様予習・復習も多く、かなり厳しい授業になるとは思いますが、英語力アップ(特に読む力、書く力)間違いなしです。</p>		<p>1 Chapter 7</p> <p>2 補助教材</p> <p>3 Chapter 8</p> <p>4 補助教材</p> <p>5 Chapter 9</p> <p>6 補助教材</p> <p>7 Chapter 10</p> <p>8 補助教材</p> <p>9 Chapter 11</p> <p>10 補助教材</p> <p>11 Chapter 12</p> <p>12 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Leading Companies in the 21st Century(松柏社)</p> <p>補助教材は担当者が準備する</p>		<p>出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。</p>	

02年度以前(通年)	英語(上級会話Ⅲ)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main goal of this class is to help students increase their confidence and fluency in discussions of current events and contemporary topics. Discussions will be based on topics we investigate in readings, videos, interviews with each other, and individual research. We will cover a wide range of issues, including lifestyles, family and personal relationships, global issue, social issues, and more.</p> <p>Students must be prepared to actively participate in classroom discussions class. The teacher will guide and support you in your reading, listening, research, and discussions, but students will do most of the talking in this class.</p>		<p>Semester 1</p> <p>Week 1: Orientation and Level-Test</p> <p>Weeks 2 – 11: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級会話Ⅲ)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting discussion topics and will do more individualized research on these topics.</p>		<p>Semester 2</p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	佐藤 保																																																															
講義目的、講義概要		授業計画																																																																
<p>できる限り身近な内容のものを選んだので、技術に専門でない人にも容易に理解できます。担当教員自身も文科系出身である(Master of Arts)が、技術翻訳には20年以上の経験を持っており、実務翻訳就職希望者(part-time, permanent job いずれの場合も)の相談には、大いに応じたいと思っています(例えば、昼休み(308教室)や、時には課外(居酒屋、等)で。</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>MINIATURIZATION</td><td>10</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>11</td></tr> <tr><td>2</td><td>WHY IS TEMPERATURE RISING</td><td>12</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>13</td></tr> <tr><td>3</td><td>WHAT MAKES AN ATMOSPHERE</td><td>14</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>THE SURFACE OF THE SEA</td><td>16</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>17</td></tr> <tr><td>5</td><td>HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER</td><td>18</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>19</td></tr> <tr><td>6</td><td>THE PURPOSES OF TVA</td><td>22</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>23</td></tr> <tr><td>7</td><td>INDUSTRIAL POLLUTION</td><td>24</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>25</td></tr> <tr><td>8</td><td>BATTERY AND CURRENT FLOW</td><td>26</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>27</td></tr> <tr><td>9</td><td>BELL SYSTEM</td><td>28</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>29</td></tr> <tr><td>10</td><td>THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE</td><td>30</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>31</td></tr> <tr><td>11</td><td>ULTRASONICS</td><td>32</td></tr> </table>		1	MINIATURIZATION	10		Exercise	11	2	WHY IS TEMPERATURE RISING	12		Exercise	13	3	WHAT MAKES AN ATMOSPHERE	14		Exercise	15	4	THE SURFACE OF THE SEA	16		Exercise	17	5	HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER	18		Exercise	19	6	THE PURPOSES OF TVA	22		Exercise	23	7	INDUSTRIAL POLLUTION	24		Exercise	25	8	BATTERY AND CURRENT FLOW	26		Exercise	27	9	BELL SYSTEM	28		Exercise	29	10	THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE	30		Exercise	31	11	ULTRASONICS	32
1	MINIATURIZATION	10																																																																
	Exercise	11																																																																
2	WHY IS TEMPERATURE RISING	12																																																																
	Exercise	13																																																																
3	WHAT MAKES AN ATMOSPHERE	14																																																																
	Exercise	15																																																																
4	THE SURFACE OF THE SEA	16																																																																
	Exercise	17																																																																
5	HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER	18																																																																
	Exercise	19																																																																
6	THE PURPOSES OF TVA	22																																																																
	Exercise	23																																																																
7	INDUSTRIAL POLLUTION	24																																																																
	Exercise	25																																																																
8	BATTERY AND CURRENT FLOW	26																																																																
	Exercise	27																																																																
9	BELL SYSTEM	28																																																																
	Exercise	29																																																																
10	THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE	30																																																																
	Exercise	31																																																																
11	ULTRASONICS	32																																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																																
<p>科学技術英語の基礎(南雲堂) 実務翻訳ガイド2005年度版(アルク社)</p>		<p>(平常点) 5点×□(回) = □点 (定期試験) 15点×6(問) = 90点</p>																																																																

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	佐藤 保																																																																											
講義目的、講義概要		授業計画																																																																												
<p>できる限り身近な内容のものを選んだので、技術に専門でない人にも容易に理解できます。担当教員自身も文科系出身である(Master of Arts)が、技術翻訳には20年以上の経験を持っており、実務翻訳就職希望者(part-time, permanent job いずれの場合も)の相談には、大いに応じたいと思っています(例えば、昼休み(308教室)や、時には課外(居酒屋、等)で。</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>ELECTRIC FURNACE</td><td>34</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>35</td></tr> <tr><td>2</td><td>TELEVISION-HOW THE PICTURE IS TELECAST</td><td>36</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>37</td></tr> <tr><td>3</td><td>ELECTRONIC COMPUTERS</td><td>38</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>39</td></tr> <tr><td>4</td><td>THE BRAIN IN SPACE</td><td>40</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>41</td></tr> <tr><td>5</td><td>ROCKETS</td><td>42</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>43</td></tr> <tr><td>6</td><td>ORBIT OF SATELLITE</td><td>44</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>45</td></tr> <tr><td>7</td><td>IMP SATELLITES AND SOLAR WIND</td><td>46</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>47</td></tr> <tr><td>8</td><td>AN ELECTRONIC HIGHWAY</td><td>48</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>49</td></tr> <tr><td>9</td><td>MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER</td><td>50</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>51</td></tr> <tr><td>10</td><td>PLASTICS</td><td>52</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>53</td></tr> <tr><td></td><td>ARTIFICIAL FIBERS</td><td>54</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>55</td></tr> <tr><td></td><td>TENSILE STRENGTH</td><td>56</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>57</td></tr> <tr><td></td><td>ELECTRICITY IN THE HOME</td><td>58</td></tr> </table>		1	ELECTRIC FURNACE	34		Exercise	35	2	TELEVISION-HOW THE PICTURE IS TELECAST	36		Exercise	37	3	ELECTRONIC COMPUTERS	38		Exercise	39	4	THE BRAIN IN SPACE	40		Exercise	41	5	ROCKETS	42		Exercise	43	6	ORBIT OF SATELLITE	44		Exercise	45	7	IMP SATELLITES AND SOLAR WIND	46		Exercise	47	8	AN ELECTRONIC HIGHWAY	48		Exercise	49	9	MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER	50		Exercise	51	10	PLASTICS	52		Exercise	53		ARTIFICIAL FIBERS	54		Exercise	55		TENSILE STRENGTH	56		Exercise	57		ELECTRICITY IN THE HOME	58
1	ELECTRIC FURNACE	34																																																																												
	Exercise	35																																																																												
2	TELEVISION-HOW THE PICTURE IS TELECAST	36																																																																												
	Exercise	37																																																																												
3	ELECTRONIC COMPUTERS	38																																																																												
	Exercise	39																																																																												
4	THE BRAIN IN SPACE	40																																																																												
	Exercise	41																																																																												
5	ROCKETS	42																																																																												
	Exercise	43																																																																												
6	ORBIT OF SATELLITE	44																																																																												
	Exercise	45																																																																												
7	IMP SATELLITES AND SOLAR WIND	46																																																																												
	Exercise	47																																																																												
8	AN ELECTRONIC HIGHWAY	48																																																																												
	Exercise	49																																																																												
9	MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER	50																																																																												
	Exercise	51																																																																												
10	PLASTICS	52																																																																												
	Exercise	53																																																																												
	ARTIFICIAL FIBERS	54																																																																												
	Exercise	55																																																																												
	TENSILE STRENGTH	56																																																																												
	Exercise	57																																																																												
	ELECTRICITY IN THE HOME	58																																																																												
テキスト、参考文献		評価方法																																																																												
<p>科学技術英語の基礎(南雲堂) 実務翻訳ガイド2005年度版(アルク社)</p>		<p>(平常点) 5点×□(回) = □点 (定期試験) 15点×6(問) = 90点</p>																																																																												

02年度以前(春)	英語(上級作文Ⅲ)	担当者	保坂 華子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化社会にあつて世界の動きを理解し、自分の考えを表現するには、英語で問題を捉え、自分のことばで正確に考えを伝えることも重要なスキルとなります。</p> <p>このクラスでは、英語で提示された問題(issue)に関して、①まず「読んで理解」し、②自分の「考えをまとめ」、③その問題について「クラスで理解を深め」、④「考えを整理」し、⑤「自分のことばで表現する」「論じる」、という過程をつんでいきます。</p> <p>語学の習得には「授業の参加者の積極性」が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。授業では順番に当てていきます。作文のクラスですから、どんどん書いていきましょう。</p> <p>進度を見ながら随時テキスト以外の教材も取り入れ、1-2回に1章程度を予定しています。</p>		<p>1 授業方法、注意事項、テキストの説明他</p> <p>2 Basic skills in paragraph writing</p> <p>3以降 基本的に Unit 1 から順に進みます。 (1-2回に1章程度を予定)</p> <p>学期末にかけて、期末の課題に取り組みます。 (また、夏休みのプロジェクトを予定しています。)</p> <p>当科目用の講義支援システムは、 http://kasiwagi.dokkyo.ac.jp/proflist_eng.htm 上の担当教員の本科目用のリンクから利用できる。 授業の予習・復習に利用すること。ここにある連絡事項なども適時確認しておくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>McMahon, R. <i>Presenting Different Opinions</i>. 南雲堂 『リーダーズ英和辞典』、<i>Collins COBUILD English Language Dictionary</i> など、各自辞書を用意・持参のこと。</p>		<p>出席状況(2/3以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」—やる気と努力を重視する。</p>	

02年度以前(秋)	英語(上級作文Ⅲ)	担当者	保坂 華子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期の続きで、さらに「自分のことばで表現する」力、「理解する」力をつけましょう。</p> <p>英語で「書く」、「自分のことばで論ずる」練習をしていきます。</p>		<p>1 復習など</p> <p>夏休みのプロジェクトの発表会(前半に実施)</p> <p>2以降 基本的に前期の続きから順に進みます。 (1-2回に1章程度を予定)</p> <p>学期末にかけて、期末の大きな課題に取り組みます。</p> <p>最終回 まとめなど</p> <p>当科目用の講義支援システムは、 http://kasiwagi.dokkyo.ac.jp/proflist_eng.htm 上の担当教員の本科目用のリンクから利用できる。 授業の予習・復習に利用すること。ここにある連絡事項なども適時確認しておくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト他、各自辞書を用意・持参のこと。 例:『リーダーズ英和辞典』、<i>Collins COBUILD English Language Dictionary</i></p>		<p>出席状況(2/3以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」—やる気と努力を重視する。</p>	

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main goal of this class is to help students increase their confidence and fluency in reading and discussing current events and contemporary topics in English. We will read interesting texts on various topics. We will read fiction and non-fiction, stories, magazine articles, newspaper articles, and more. Some of the reading you will choose yourself. You will need to do some reading outside of class (i.e. there is homework in this class).</p> <p>Students should be prepared to actively participate in classroom discussions. The teacher will guide and support you in your reading and discussions with other students, but you, the students, will do most of the talking in this class.</p>		<p>Semester 1</p> <p>Week 1: Orientation and Level-Test</p> <p>Weeks 2 – 11: Various reading topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting reading materials and discussions will be based on your individualized reading.</p>		<p>Semester 2</p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various reading topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02 年度以前 (通年)	英語 (上級会話Ⅲ)	担当者	G. コッホ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>Web Page: http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text Material will be downloaded from a web site.</p>		<p>Participation Weekly quizzes, and assignments</p>	

02 年度以前 (通年)	英語 (上級会話Ⅲ)	担当者	G. コッホ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>Web Page: http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text Material will be downloaded from a web site.</p>		<p>Participation Weekly quizzes, and assignments</p>	

02年度以前 (通年)	英語 (基礎会話Ⅲ)	担当者	R. M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to:</p> <ul style="list-style-type: none"> * help students improve their ability to communicate in spoken English; * introduce students to the culture of American English 		<p>We will cover one unit of the text during two class periods.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>Gear Up</u> (book 2)</p>		<p>Grades will be based on attendance and participation as well as regular evaluation.</p>	

02年度以前 (通年)	英語 (基礎会話Ⅲ)	担当者	R. M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of the spring term course.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

02年度以前(通年)	英語(基礎読解Ⅲ)	担当者	赤嶺 玲子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業では、アメリカ合衆国のエスニックマイノリティー(民族・文化的少数派)について書かれたテキストを読む。アメリカ社会、その国際関係について多角的な視点から学び、議論することによって、英語の読解力や表現力をつけるとともに、国際的な視野を広げることが、この授業の目的である。</p> <p>毎週の授業では生徒一人ひとりにテキストの英文を順番で訳してきてもらい、その週のトピックに関連する英語の新聞記事や雑誌記事、またはインタビューなどの音声教材を適宜使用しながら、自由にディスカッションを行う。グループ・ディスカッションやプレゼンテーションも、生徒の希望などを考慮しながら行う予定である。</p>		<p>春・秋学期で以下の項目を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese-Americans (1) / もう一人のイチローとはだれか Jewish-Americans / 移民族間結婚の恐怖 3. Chinese-Americans / チャンスをつかむ Irish-Americans / 新たな約束の地 4. Native-Americans / ネイティブアメリカンの知恵と「武器」 German-Americans / 不戦主義者としてのアメリカ人 5. Indian-Americans / モーテルのオーナーから情報産業の覇者まで Italian-Americans / 娯楽化するステレオタイプイメージ 6. Korean-Americans / マンハッタン商店主の苦悩 African-Americans / 人種差別と「逆差別」の論理 7. Japanese-Americans / 「戦争花嫁」という存在 Mexican Immigrants / アメリカ人になるための確かな条件 8. The Hmong / 彼らは時空を越えて移民した Cuban-Americans / カストロの死を待つ人々 他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ethnic Minorities in the U.S.A. <民族から見たアメリカ社会> 著者: 川村義治、Robert Muraskin 出版社: 成美堂		訳の課題 (30%) 出席、ディスカッションなど (30%) 学期末試験 (記述式含む) (40%)	

02年度以前(通年)	英語(基礎読解Ⅲ)	担当者	赤嶺 玲子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

02年度以前(通年)	英語(基礎作文Ⅲ)	担当者	柚木 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 読み手にとって分かりやすくなるように、自分の考え・文章を効果的に表現する方法を学ぶというのがこの授業の目的です。最終的に、独創的かつインパクトのある自分独自のアイデアを効果的に人に与える力を身に付ける事を目標にしながら、「何かを考えるのが好き」な人に向いていると思います。</p> <p>[講義概要] 正確には、講義というよりも「演習」といえるかも知れませんが。文章を書く際の幾つかのルール(=パラグラフパターン)を学び、それに基づいて出来るだけたくさんの『作品』をどんどん仕上げていく事になります:基本的に毎週何らかの『創作活動』がありますので、出席重視となります。 毎回の「作業」の都合上、英和辞書と和英辞書を必ず持参すること(電子辞書OKです)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. パラグラフとは? 3. 4. 作品1提出 5. 6. 作品2提出 7. 8. 作品3提出 9. 10. 作品4提出 11. 12. 作品5提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト] 岩本一・吉田宏予著 Building the Essay from Well-written Paragraph 東京精文館 2003年</p>		出席点と数回の『作品』(≒レポート)の得点から判断します。(詳細は初回の授業時に。)	

02年度以前(通年)	英語(基礎作文Ⅲ)	担当者	柚木 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. パラグラフとは? 3. 作品6提出 4. 5. 作品7提出 6. 7. 作品8提出 8. 9. 作品9提出 10. 11. 12. 作品10提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ。		上に同じ。	

02年度以前 (春)	英語 (CAEL)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWordsを学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。春学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

02年度以前 (秋)	英語 (CAEL)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWordsを学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。秋学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

2005年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学生用)

外国語学部共通科目 (2003年度以降入学生用)

目 次

※受講定員のある科目は、登録が定員を超えた場合に抽選を行う。授業時間割表を参照する。

時間割 コード	開講期	受講 定員	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ					
07690	春		総合講座	加藤 信重	水3	5-128	2	1	経・法	1					
07691	秋		総合講座	加藤 信重	水3	5-128	2	2	経・法	1					
00220	春		情報科学概論a	呉 浩東	金1	1-206	2	1	経・法	2					
00221	秋		情報科学概論b	呉 浩東	金1	1-206	2	2	経・法	2					
			情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3					
00138	春	60		長崎 等	月3	5-201									
00042	春	60		東 孝博	月3	5-207									
00058	春	60		金子 憲一	月4	5-207									
00068	春	60		金子 憲一	月5	5-207									
00074	春	60		田中 雅英	火1	5-207									
00093	春	60		田中 雅英	火2	5-207									
00208	春	60		内田 俊郎	木4	5-207									
00253	春	60		松山 恵美子	金2	5-207									
				情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員							2	2	経・法	4
00141	秋	60			長崎 等	月2					5-207				
00044	春	50	金子 憲一		月3	5-101									
00070	秋	60	金子 憲一		月5	5-207									
00076	秋	60	田中 雅英		火1	5-207									
00109	春	60	田中 雅英		火3	5-100									
09040	春	60	二宮 哲		水1	5-201									
00019	秋	50	呉 浩東		水2	5-208									
00184	春	60	内田 俊郎		木2	5-207									
00193	秋	60	内田 俊郎		木2	5-201									
09037	秋	60	内田 俊郎		木3	5-207									
00231	秋	60		松山 恵美子	金2	5-207									
00255	春	60		松山 恵美子	金3	5-201									
00201	春	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	1	経・法	5					
00202	秋	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	2	経・法	5					
			情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	2	経・法	6					
00046	秋	60		東 孝博	月3	5-207									
00060	秋	60		金子 憲一	月4	5-207									
00096	秋	60		田中 雅英	火2	5-207									
00131	秋	60		二宮 哲	水1	5-201									
00021	春	50		呉 浩東	水2	5-208									
00195	春	60		内田 俊郎	木3	5-207									
00210	秋	60		内田 俊郎	木4	5-207									
00239	秋	30		情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金3					5-203	2	2	経・法	7
00232	春	30		情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金4					5-207	2	1	経・法	7
09308	秋	30		情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	金4					5-203	2	2	経・法	8
00017	春	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	東 孝博	月2	5-203	2	1		9					
00048	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	月3	5-101	2	2		10					
00111	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	火3	5-100	2	2		11					
00025	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用2)	東 孝博	月2	5-203	2	2		9					
00156	春	30	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	月2	5-207	2	1		12					
00158	秋	30	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	月3	5-209	2	2		12					
00172	春	30	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	月2	5-210	2	3	言	13					
00191	秋	30	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	月2	5-210	2	4	言	13					
00087	春		経済原論a	野村 容康	火1	2-404	2	1	経・法	14					
00088	秋		経済原論b	野村 容康	火1	2-404	2	2	経・法	14					
00055	春		社会心理学a	田口 雅徳	火4	3-202	2	1		15					
00056	秋		社会心理学b	田口 雅徳	火4	3-202	2	2		15					

03年度以降(春)	総合講座	担当者	加藤 僖重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～日本は諸外国から何を学び、何を伝えたか～</p> <p>講義目的および概要 日本人は海外への好奇心は高く、海外から多くの諸知識を昔から得てきた。 本講義は毎回の講演者が、右に示したように各自の専攻分野において、日本が外国の学問をどのように導入したかを講義する。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>4月13日</td><td>はじめに</td><td>加藤 僖重</td></tr> <tr><td>2</td><td>4月20日</td><td>中国古典</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>3</td><td>4月27日</td><td>「社会」</td><td>有吉 広介</td></tr> <tr><td>4</td><td>5月11日</td><td>ダンス</td><td>青柳 多恵子</td></tr> <tr><td>5</td><td>5月18日</td><td>会計学</td><td>湯田 雅夫</td></tr> <tr><td>6</td><td>5月25日</td><td>社会主義 1</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>7</td><td>6月1日</td><td>社会主義 2</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>8</td><td>6月8日</td><td>古代日本の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>9</td><td>6月15日</td><td>教育制度</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>10</td><td>6月22日</td><td>基督教</td><td>高橋 正男</td></tr> <tr><td>11</td><td>6月29日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>12</td><td>7月6日</td><td>まとめ</td><td>加藤 僖重</td></tr> </table>		1	4月13日	はじめに	加藤 僖重	2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎	3	4月27日	「社会」	有吉 広介	4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子	5	5月18日	会計学	湯田 雅夫	6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾	7	6月1日	社会主義 2	辻 康吾	8	6月8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦	9	6月15日	教育制度	川村 肇	10	6月22日	基督教	高橋 正男	11	6月29日		未定	12	7月6日	まとめ	加藤 僖重
1	4月13日	はじめに	加藤 僖重																																																
2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎																																																
3	4月27日	「社会」	有吉 広介																																																
4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子																																																
5	5月18日	会計学	湯田 雅夫																																																
6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾																																																
7	6月1日	社会主義 2	辻 康吾																																																
8	6月8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦																																																
9	6月15日	教育制度	川村 肇																																																
10	6月22日	基督教	高橋 正男																																																
11	6月29日		未定																																																
12	7月6日	まとめ	加藤 僖重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

03年度以降(秋)	総合講座	担当者	加藤 僖重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～一冊の本・一つの資料に出会う～</p> <p>講義目的および概要 本講義では毎回の講演者が、各自の専攻分野において、何に惹かれ、何を勉強・研究しているかを講義する。この講義が学生諸君の将来の指針となることを願う。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>9月28日</td><td>はじめに</td><td>加藤 僖重</td></tr> <tr><td>2</td><td>10月5日</td><td>明治の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>3</td><td>10月12日</td><td>スポーツ</td><td>梶野 克之</td></tr> <tr><td>4</td><td>10月19日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>5</td><td>10月26日</td><td>フリースラント語</td><td>児島 仁士</td></tr> <tr><td>6</td><td>11月2日</td><td>伊藤仁斎</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>7</td><td>11月9日</td><td>教育史</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>8</td><td>11月16日</td><td>文化人類学</td><td>井上 兼行</td></tr> <tr><td>9</td><td>11月30日</td><td>化学と生活</td><td>塚目 孝裕</td></tr> <tr><td>10</td><td>12月7日</td><td>シーボルト蒐集品</td><td>和田 浩志</td></tr> <tr><td>11</td><td>12月14日</td><td>スペイン語</td><td>二宮 哲</td></tr> <tr><td>12</td><td>12月21日</td><td>まとめ</td><td>加藤 僖重</td></tr> </table>		1	9月28日	はじめに	加藤 僖重	2	10月5日	明治の国際交流	飯島 一彦	3	10月12日	スポーツ	梶野 克之	4	10月19日		未定	5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士	6	11月2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎	7	11月9日	教育史	川村 肇	8	11月16日	文化人類学	井上 兼行	9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕	10	12月7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志	11	12月14日	スペイン語	二宮 哲	12	12月21日	まとめ	加藤 僖重
1	9月28日	はじめに	加藤 僖重																																																
2	10月5日	明治の国際交流	飯島 一彦																																																
3	10月12日	スポーツ	梶野 克之																																																
4	10月19日		未定																																																
5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士																																																
6	11月2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎																																																
7	11月9日	教育史	川村 肇																																																
8	11月16日	文化人類学	井上 兼行																																																
9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕																																																
10	12月7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志																																																
11	12月14日	スペイン語	二宮 哲																																																
12	12月21日	まとめ	加藤 僖重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

03年度以降(春)	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機機の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 アルゴリズム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学概論 b	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 言語処理における情報技術(演習) 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用I』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級—表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)—作成 (MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)—作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)—発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級—表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)—作成 (MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)—作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)—発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpointの基本操作1 3. Powerpointの基本操作2 4. Powerpointの基本操作3 5. Powerpointの基本操作4 6. Powerpointの基本操作5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpointの基本操作1 3. Powerpointの基本操作2 4. Powerpointの基本操作3 5. Powerpointの基本操作4 6. Powerpointの基本操作5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWWとLAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストとHTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造とHTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWWとLAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストとHTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造とHTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降 (春)	情報科学各論 (中級—表計算応用 1)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第 1 回目課題作成 7 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (1) 8 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (2) 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03 年度以降 (秋)	情報科学各論 (中級—表計算応用 1)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第 1 回目課題作成 7 VBA の利用 (1) 8 VBA の利用 (2) 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03年度以降 (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (秋)	情報科学各論 (中級—表計算応用2)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論 (中級—表計算応用1) の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論 (中級—表計算応用1) では、Excel の基本的なマクロ機能を学習しながら VBA (Visual Basic for Application) の基本についても触れた。</p> <p>本講義では、VBA をもう一步踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論 (中級—表計算応用1) で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習 2 VBA とは (1) 3 プログラミングの技法 (1) 4 プログラミングの技法 (2) 5 マクロ用ボタンとの連携 6 第1回目課題作成 7 プログラミングの技法 (3) 8 プログラミングの技法 (4) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-HTML応用1)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることが目標とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTMLの復習(簡単なCGIの利用) 3 HTMLの復習(Javaスクリプトの埋め込み) 4 Javaアプレットの概要 5 プログラム練習(グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習(定数と変数) 7 プログラム練習(for文1) 8 プログラム練習(for文2) 9 プログラム練習(if文) 10 プログラム練習(配列) 11 プログラム練習(Mathオブジェクト) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-HTML応用2)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることが目標とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Javaの基本構造 2 イベント処理(マウスイベント1) 3 イベント処理(マウスイベント2) 4 イベント処理(キーイベント1) 5 イベント処理(キーイベント2) 6 GUI部品の使用(ボタン・チェックボックス) 7 GUI部品の使用(選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI部品の使用(GUI部品のレイアウト) 9 スレッドの利用(イメージの移動) 10 スレッドの利用(色の変化・時計) 11 スレッドの利用(スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方の方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<p>1 ガイダンスとイントロダクション</p> <p>2 HTMLとFTPの復習（1）</p> <p>3 HTMLとFTPの復習（2）</p> <p>4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI）</p> <p>5 JavaScript（1）</p> <p>6 JavaScript（2）</p> <p>7 JavaScript（3）</p> <p>8 JavaScript（4）</p> <p>9 CGIの利用（1）</p> <p>10 CGIの利用（2）</p> <p>11 CGIの利用（3）</p> <p>12 総合報告会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。プリントの配布も行う。		授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJava Scriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. Java Script1 5. Java Script2 6. Java Script3 7. Java Script4 8. CGI 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-データベース1)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア(Excel)の基礎をマスターした学生を対象として、Excelを利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論(初級-表計算入門)を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索1 8 条件検索2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-データベース2)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース1」を履修済みの学生を対象として、Accessを利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Accessの基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論(中級)「データベース1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Accessの基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー(1) 6 クエリー(2) 7 グループによるテーブル設計1(ハイレベルエンティティ分析) 8 グループによるテーブル設計2(関係データ分析) 9 グループによるテーブル設計3(テーブル作成) 10 グループによるクエリ設計1(外部スキーマの設計) 11 グループによるクエリ設計1(クエリの作成) 12 グループによるプレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30Hで理解できるアクセス2000』, 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-プログラミング論1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-プログラミング論2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方ははじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用的なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降（春）	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降（秋）	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. 物価とインフレーション 10. 失業の問題 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降（春）	社会心理学 a	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて、身近な話題を取り入れながら論じていきたい。年間を通じての授業概要は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者認知 2. 自己認知 3. 集団の影響力と社会的行動 4. 自己呈示と自己開示 5. 対人コミュニケーションの心理 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 他者認知：印象形成 4. 他者認知：印象の記憶 5. 他者認知：性格に認知 6. 他者認知：対人魅力 7. 自己認知：自己意識 8. 自己認知：自覚理論と没個性化 9. 自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 集団と個人の行動① 12. 集団と個人の行動② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	

03年度以降（秋）	社会心理学 b	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 自己呈示① 3. 自己呈示② 4. 自己開示 5. コミュニケーションの心理①：説得① 6. コミュニケーションの心理②：説得② 7. コミュニケーションの心理③：言語 8. コミュニケーションの心理④：非言語① 9. コミュニケーションの心理⑤：非言語② 10. コミュニケーションの心理⑥：非言語③ 11. コミュニケーションの心理⑦：CMC 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	